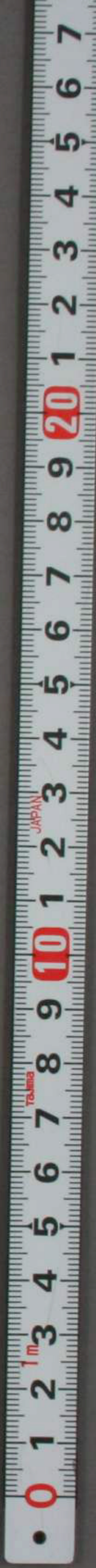


竹心曼園繪  
四

ル 4  
3665  
4





門凡生  
元 3665  
卷 4

播磨名所巡覽圖會卷之四目錄

御着降 日石城

牛堂山園分寺 牛堂 洞山堂 五智如來 金毘羅 弁天 智多堂 祇山 天保 牛塚

壇場山

德澄寺

御建屋

印澤洞

神明宮

勅使

市川

御靈祠

乃过場跡

姫路鎮城 姫山

惣社大明神

本社十六社 一宮 三宮 御更 権現 人丸 注 角 宮 金毘羅 庚申 猶若 地之入 弁明 麻呂 くらり 荒津 天保 阿ハ一主

日徳時祭礼行列之園

逢松原

刑部大明神

血屋爰

梅雨松

月園 上地 浜

日月祠

雄山

長尾山 大蔵社 天満宮 勢岩山 十二石権現

慈恩寺

後園長者宅地

傾城淵

姫治寺

手枕堂

國府寺故家

苅田故家

石巻 橋 廣福

船場徳不寺

心光寺

尾田 石橋

國府濱

雲日明神

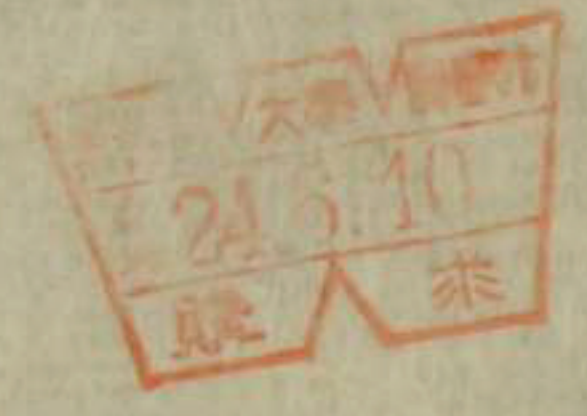
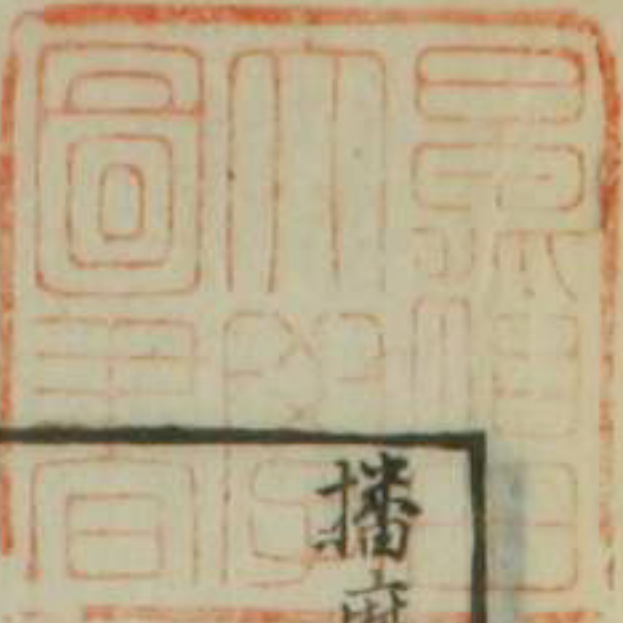
三九潘門渠

種 林 堀

齒神

雲刀九川

雲 尺 橋





幼矣明社	本庭 日明社	东山稻荷	宇佐崎惠美酒祠
會松原 妻乃渡	松原八幡 大井	麻布山	北之権尻 麻生社
于瀨塚	赤社八祠 内産石 船石 梳石 女夫石	栖田井 糸通	八重洋山
大日森	新羅明社	妻麻	國府山古城
妻麻孫三郎墓	黒田氏墓	妻麻川渡	速川祠
飾磨津	日市 日川 日橋	淡天神	飾磨寺遠跡
清水	夷村天満宮	御幸橋	乃辻社
三餘	津田細江	日徳夢	宅倉村
若一皇子權祝	長谷山觀音	羽山古坑	宅園
皇田若清	辰山城跡	白國大明社	石室
高松寺	長者屋敷	人見塚	大藏祠
龜舟寺	老僧岩	右子寺 念佛堂	風蘿堂 義塚

増位山	平堂 権堂 經堂 赤天 文徳堂 観音堂 女子堂 山王 兩山堂 兩遊井 権橋 政所 藤原墓	弥高峯
廣峯牛頭天王社	三大社 八王子社 白幣社 軍殿 治老社 天社 又社 瀧王不冠者殿 九郎社 虎 奥院	御田根社 外園
廣峯古城	白幣山	甲山社
土山八幡	龜山本徳寺	高岳社
譽田明社	額田社	手柄山
八荒社	若居寺遠法	御籠
村橋兵衛社	御石法多	夏若川
喜山	御舟隈	稲園
淡陰澤	秋書淵	妻山
稻園社	飾西釋	妻見園
大藏社	実法寺	笠寺薬師
加茂社	天満宮	一宮社
		英加城跡
		綱安天社
		白牛



叢寺

大樹清水

書寫山王院馬場

車寄

女人堂

紫雲堂

來迎石

茶所

札納石 念佛堂 渡三石 禮祝  
天祥 磁石岩 鳥相子岩

書寫山圓教寺

如去論觀女名 赤堂丹  
秋迦如來 阿弥陀堂

文殊堂 幸田墓 灌頂水 秋迦堂  
不動堂 西天護王 真院 武部墓

坂本城趾

水田城法

揖保

黒園明作

同天祥

竹川

樂々天祥

極樂寺送込

根本寺

古回寺

楠岩城趾

極楽寺遺跡

坂越山遺跡寺

中多秋迦 兼除  
觀音三層塔山王社

二王門 赤勅堂 聖靈持祝 昭堂 約登松 檀持山  
後橋 富小川 森田明祥 踏石 七格

系乃安

阿宗祥社

班鳩驛

八幡宮

小山田高家墓表を削る地

揖保川

松尾山觀音寺

金輪小宅寺

系教寺

揖保川

古居

熊見

空須步廣祠

投石城趾

朝日山大日寺

鶴立山大光寺

林松寺

丁村

陳屋

化振坂

家清

天橋宮  
山王控祝

家清祥社

赤坂清水

家清

院家清 飯盛山 志浦 宮浦 渡砥  
天祥集 觀音寺 丹下清 松清 總持清

相理石驛

又清 大橋 加清 小豆清 七七一  
多清 久清 揃清 佛若 八雲若 長舟浦

破務祥社

風早岩

福根

白鳥園

破務祥社

傳若男墓

法善寺

峯相山鶴足寺跡

去師村

傳若男墓

法善寺

長天照祥社

洲野窟

岩屋城趾

一筋川

大隈村

林田陣屋

祝田祥社

水波女 味脊窟  
女の松水

白舟水

夜守棚

丹楓

龍眼本

琵琶山

八幡宮

陰山岩

忘る

松山城跡

柴摺城跡

新宮陣屋

文奉驛

依反雅次墓

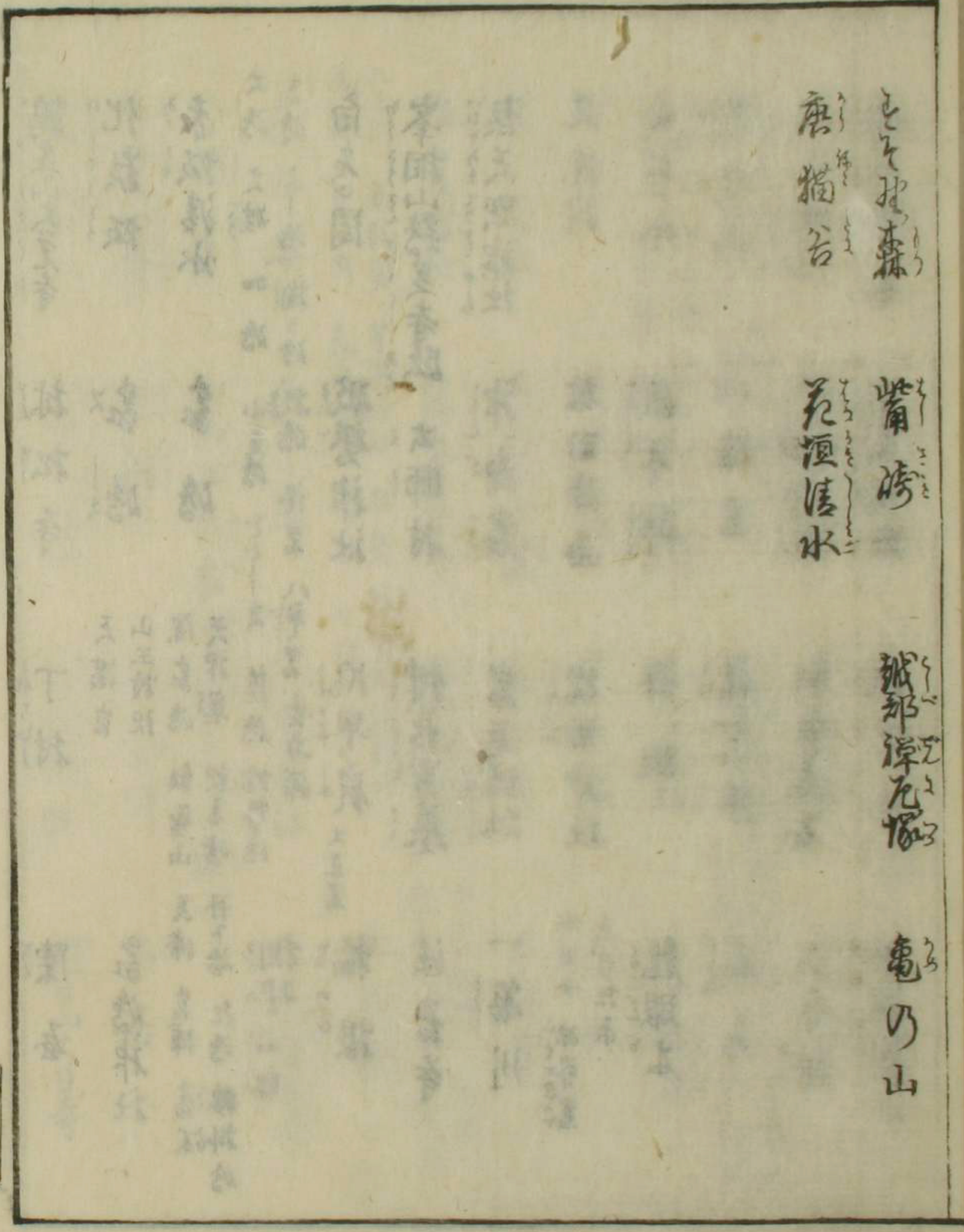
窟山城趾

伏見山

那波山祥社



とそ建森  
唐猫台  
花酒清水  
嘴崎  
城郡澤元塚  
龜の山



播磨名所巡覽圖會卷之四

御着驛

御着右城

牛堂山園分寺

牛堂山園分寺 牛堂山園分寺 三ヶ所あり 十五代聖武天皇十一年詔て園毎二園分寺と建ると云 倭日本紀曰 每園の僧寺封入十戸 水田十町を給ひ 尼寺は水田十町僧寺は水田二十町とし 寺の石を令光明に天王護國寺と云 尼寺と号て法華滅罪の寺と云

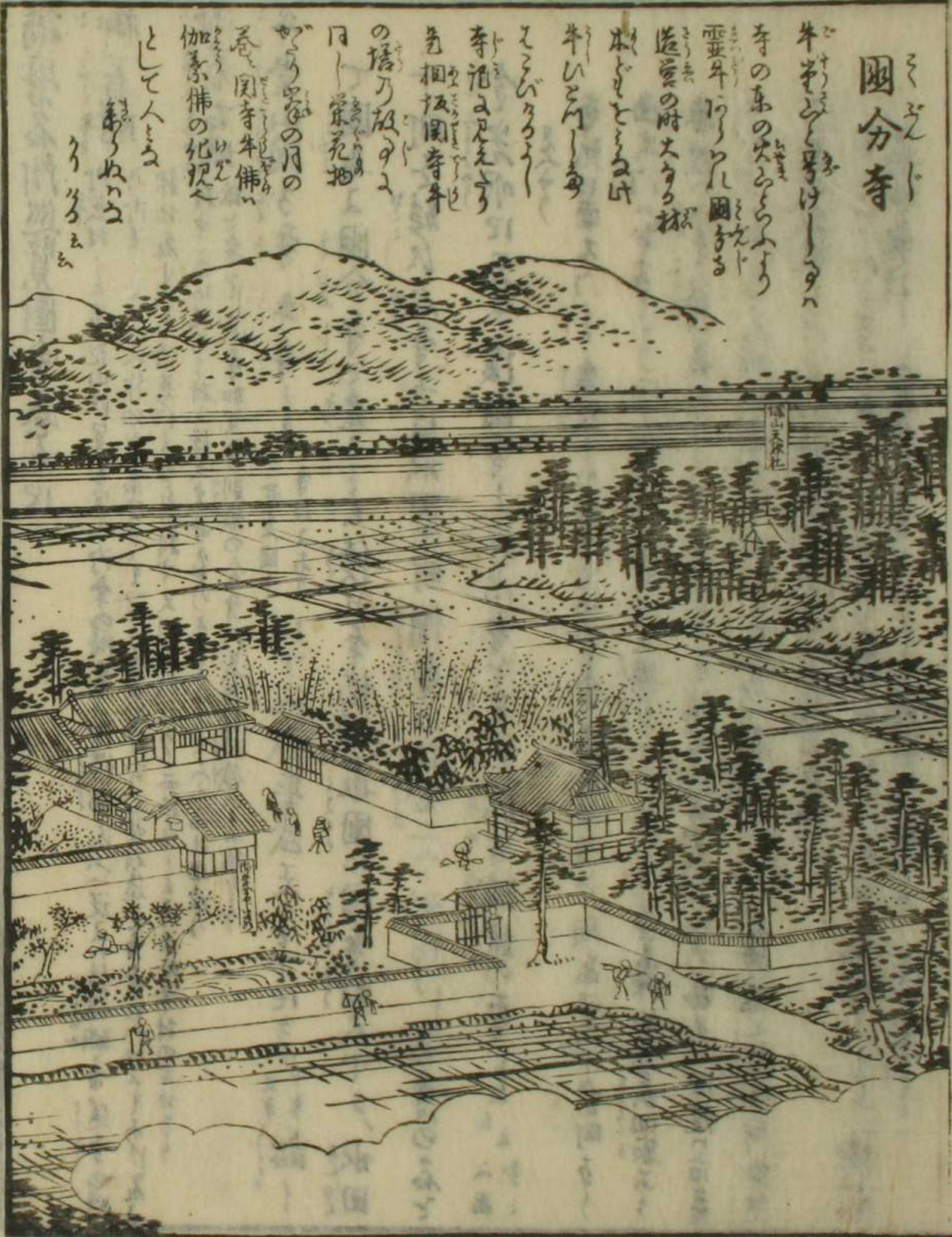
寺元曰南大門より奥院まで約百廿二里余 東院西院乃同東西六十余町あり 南大門ハ中門より二十町下の三門乃二階寺と云 是之なる美作如來長回廊あり 奥院ハ八重島の長若くはなる親善東院阿弥院大日山乃物是之西院ハ市存 ありてなる美作如來なり 本寺なるの燈塔五六の美作佛之親迦阿弥院 十二面大威徳日月二天十二津ぬ又寺内ハ七佛の美作あり

の兵机と云上にて其後一と建今の若くは地面ハ大礎の跡りなり 其美作



國分寺

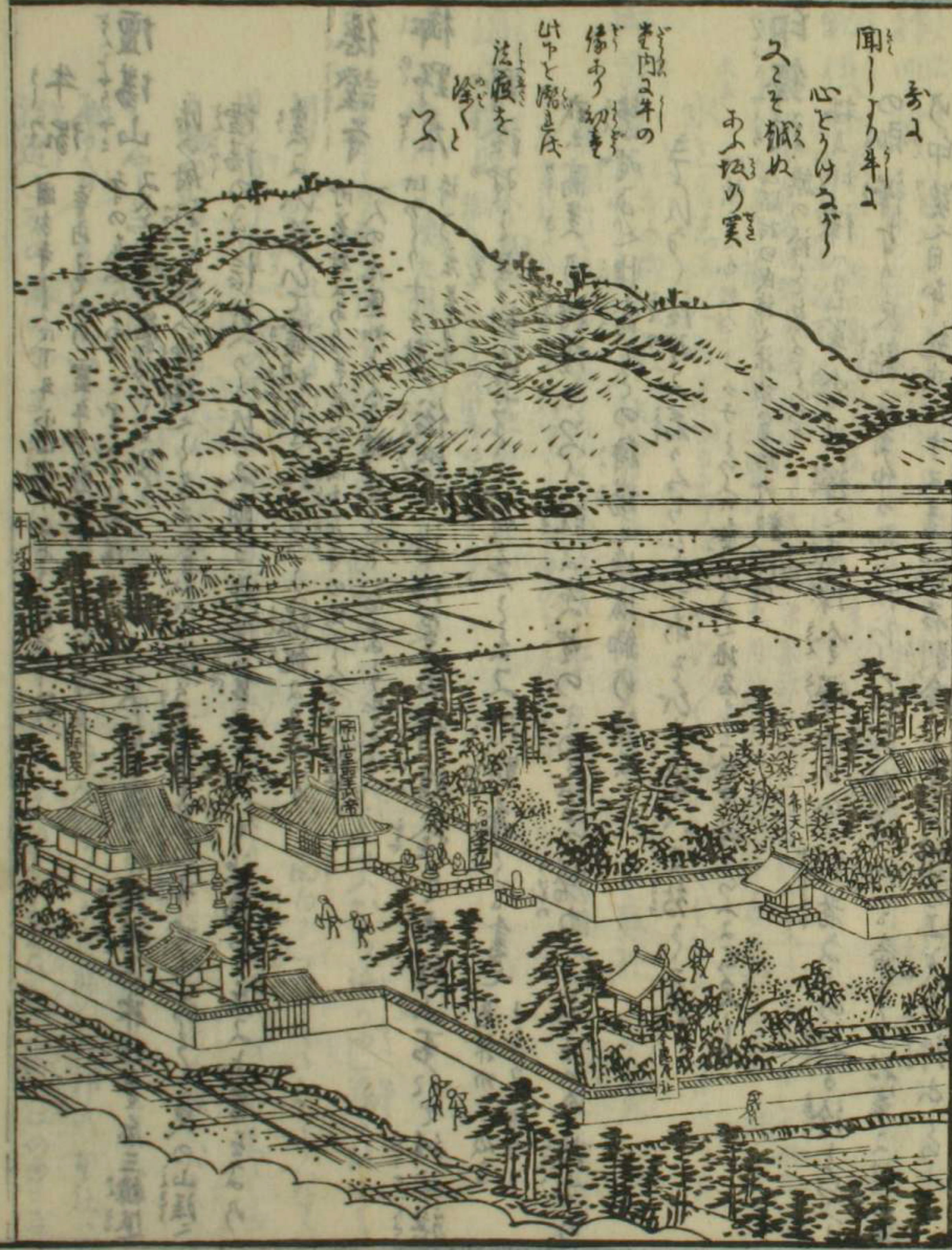
牛乳と号けしつハ  
寺の東の穴のくろくろ  
聖年けつん國分寺  
送靈の時大なる林  
本とともどもけ  
牛乳と号けしつハ  
寺池に足えし  
先相伝國分寺  
の塔乃故の  
日ト衆花地  
がう聖の月の  
卷 國分寺牛佛  
伽藍佛の化現  
として人々  
あつぬ  
くろくろ



四ノ四

牛乳と号けしつハ  
寺の東の穴のくろくろ  
聖年けつん國分寺  
送靈の時大なる林  
本とともどもけ  
牛乳と号けしつハ  
寺池に足えし  
先相伝國分寺  
の塔乃故の  
日ト衆花地  
がう聖の月の  
卷 國分寺牛佛  
伽藍佛の化現  
として人々  
あつぬ  
くろくろ

牛乳と号けしつハ  
寺の東の穴のくろくろ  
聖年けつん國分寺  
送靈の時大なる林  
本とともどもけ  
牛乳と号けしつハ  
寺池に足えし  
先相伝國分寺  
の塔乃故の  
日ト衆花地  
がう聖の月の  
卷 國分寺牛佛  
伽藍佛の化現  
として人々  
あつぬ  
くろくろ





牛塚

園を寺より丁半小田の中より是なり

壇場山

寺の南ありて里人これを壇場と云ふ  
又此山麓に信長公の御廟あり  
治の府に於て信長公の御廟ありと云ふ  
是の山上の石臺の南に年々おどく  
又の山麓に壇場の石信長公の御廟あり  
又園を寺造營の南に信功皇后上宮あり

徳證寺

野着村あり是若の園に信長公の御廟あり  
一人の瓦屋敷上人の御廟あり  
後世

御野庄

信功皇后御廟あり  
御廟あり  
御廟あり

野鈴村

野鈴村と号し合せて三野庄と云ふ  
又御野庄とも書ふ  
是御功の故寺  
と云ふなり

或云高美の御廟と云ふ  
既又交野のこの野の囀ると云ふ  
今牧方の  
禁持の之惟喬との御廟之後成御の秋  
きと云ふ御廟ありと云ふ  
又云ふ御廟あり

印鐸洞

此洞は山麓にあり  
此洞は山麓にあり  
此洞は山麓にあり

按て印鐸は先軍令の鐸之本鐸令鐸あり  
今仍者などの御廟あり  
の即鐸なり只飾は御廟あり  
御廟あり  
御廟あり

所名

御明宮

山照村あり是御明宮の御廟あり  
山照村あり是御明宮の御廟あり

勅使

勅使は山照村あり  
勅使は山照村あり

市川

市川は山照村あり  
市川は山照村あり

水とも云ふなり  
水とも云ふなり

御霊社

御霊社は山照村あり  
御霊社は山照村あり

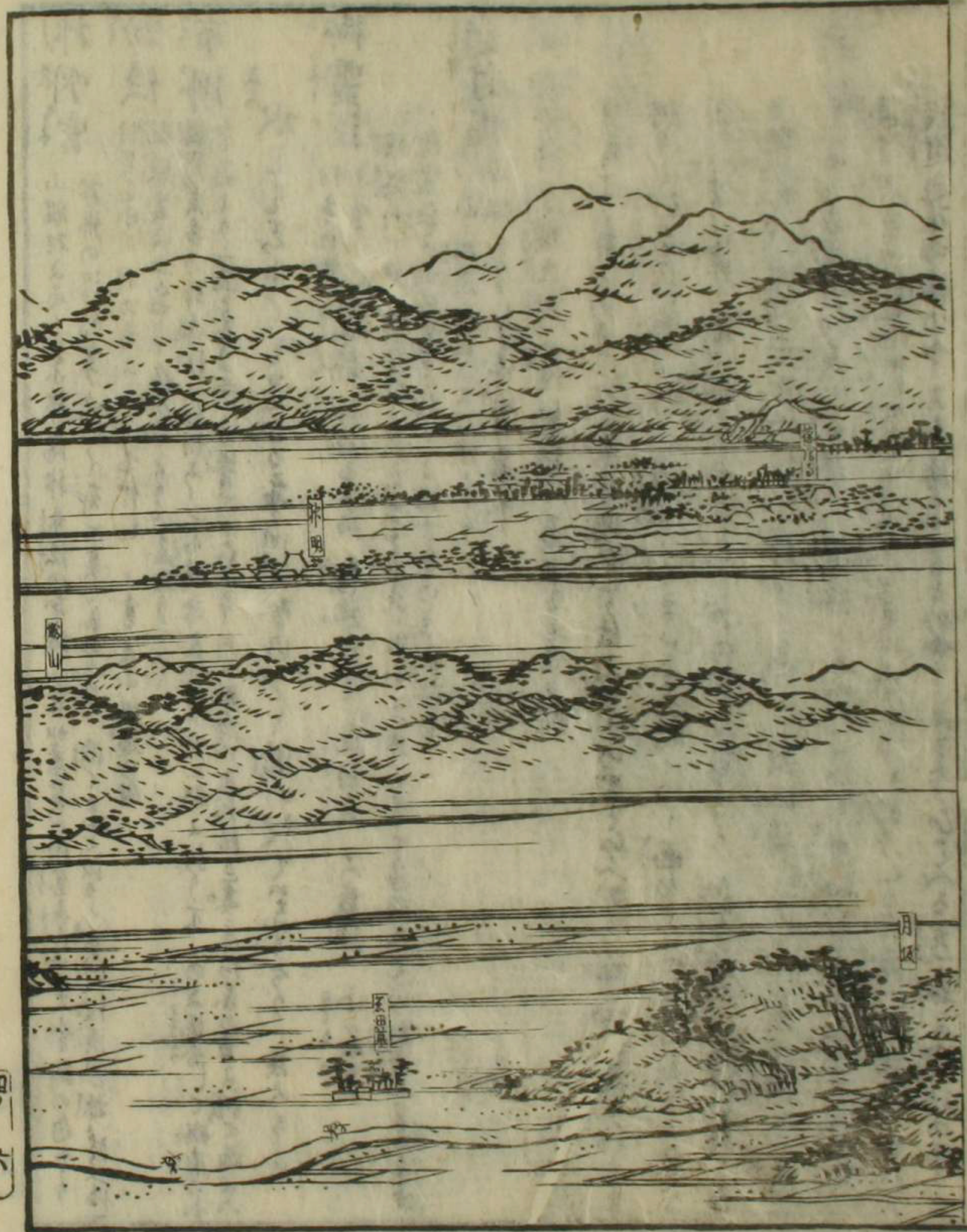
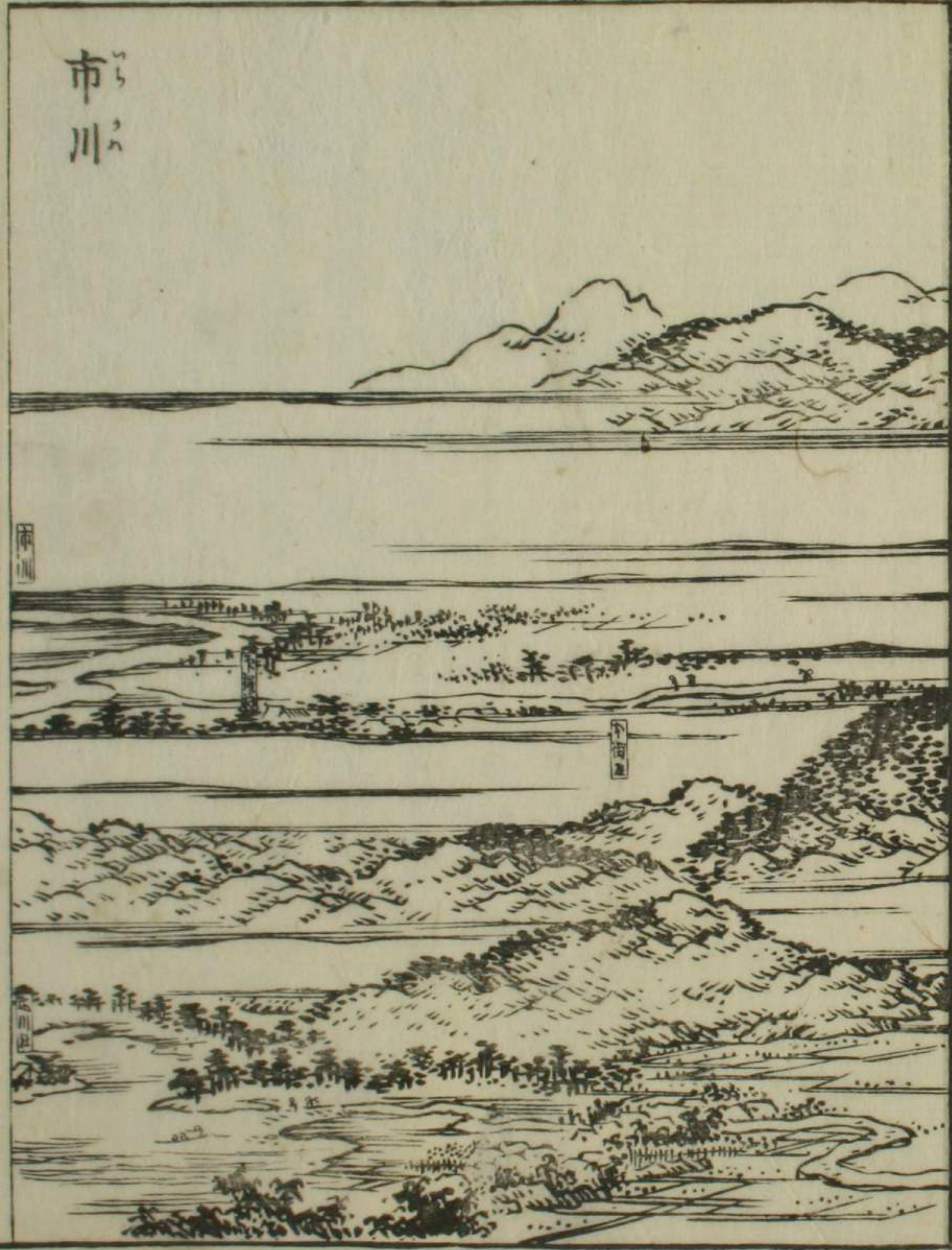
道過塚

道過塚は山照村あり  
道過塚は山照村あり

今川了俊九州に往紀紀  
今川了俊九州に往紀紀  
今川了俊九州に往紀紀



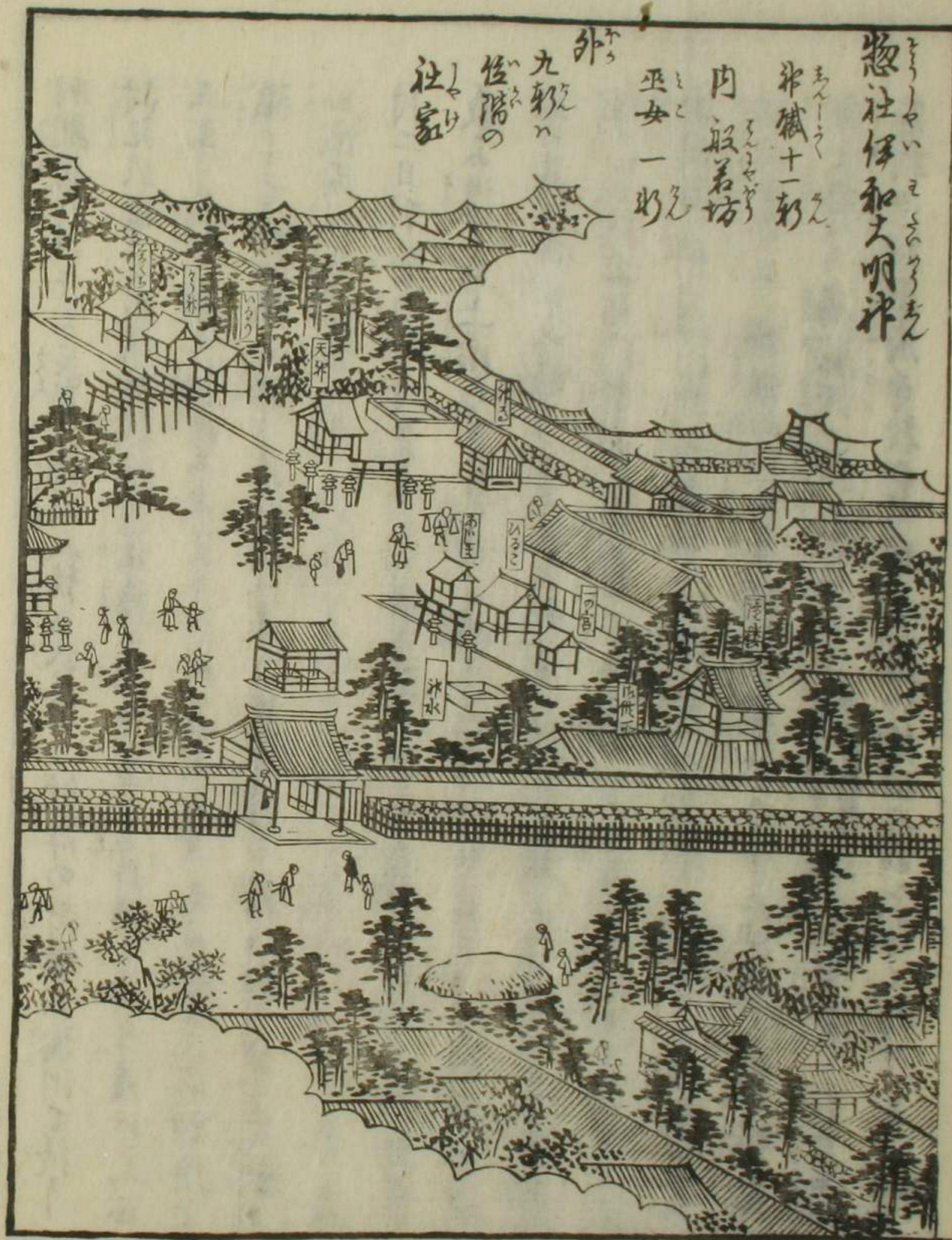
市川





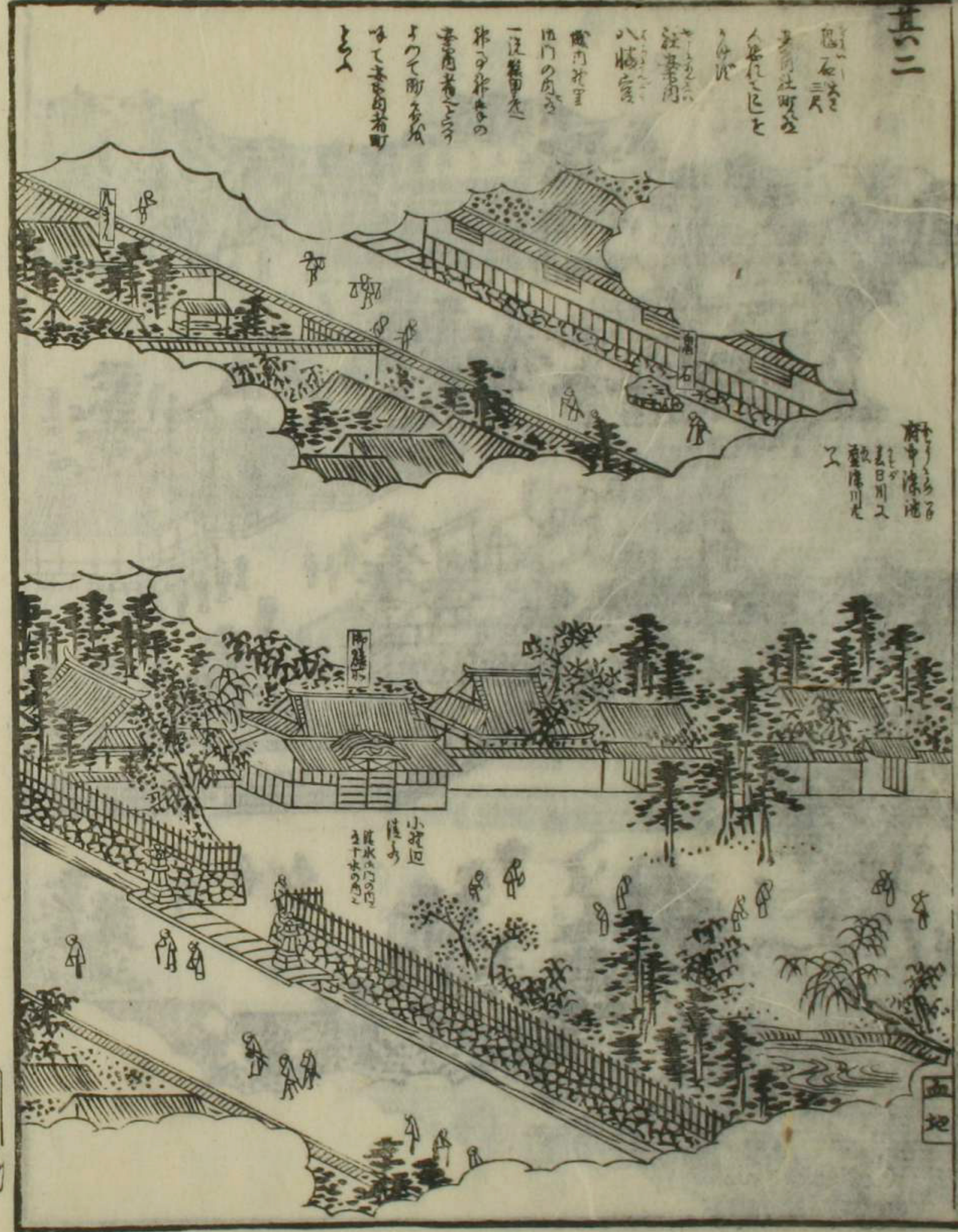








石三  
三ノ社町  
人住に区と  
ハ橋  
門の  
一注  
井の  
よつて  
よつて



即尚城を再管して奮より封境度大に慶長十三年始めて五  
重の天守を築き九ヶ年うて城外七十八町に割居  
て東西三十六町五十間余東に橋本町西に龍中町六丁目南小井三町  
二十間余南に飾間津門山に威徳寺町と定り厥后交代連綿の居

城とありて市麩町と赤子民街と名く城湯古

姫山 今この山の名は姫山と云ふは山名あり一説は西に男山あり是より  
國方姫と云ふは名は徳姫と云ふは名あり一説は西に男山あり是より

と号し又姫山國府寺氏に傳曰素紗帝乃苗裔爾世攝摩之足明雄が室と云  
うけのていふは流まらうてつてお授とんは尚後考文に○真龍姫山の稱名寺の佛圖

徳社伊和明社 姫山傳曰明 赤子東殿五十猛命西殿大己美命中殿九石社

社傳曰人皇に十七代淡路廢帝天平宝字七年造國乃一宮み

和社軍戰勝利と祈誓せし時大己美命水尾山に降臨はし

正曆二年六月初日正一位を授けたり同年赤子ありて九所の而重社

を併せ祀り柳本乃地に遷座する其後養和元年正月廿三日



草上郷村楠兵重神社津名二座の内五十種命と併せり二社一光の傳  
あり同年六月十一日末社と封し一月十一日又日延喜式津名帳據六  
國五十種神大七座を大己美命左右に併せ額の銘曰軍八段正位惣  
社伊和大明神と書し軍八段と号するは満軍神の取らるる軍師軍師と云ふ  
事ありハツの程の多きをいふ八百為神の取らるるの謂也  
又伊和と号するは伊和軍師  
當社例祭十一月十五日よりして惣時祭ハ廿  
一年月之穴栗郡白倉山高湯山華清山乃三山と多りて造り山を  
極へ緒を飾芝本乃造り花と云ふ營と舞臺ありて後樂三番  
宛とんと勤る舊例あり是皆町々をより出れ例式之是當社の大  
おありて嚴重なるゆゑ當國又比敷は又七月十三日より十五日まで  
神踊あり兵杖刀劍を振て軍旗威儀を如く俗に修羅踊といふ  
又ホウテニ踊ともいふ天平宝字八年異域龍雲来の附着京貞國將軍  
として追討し凱陣の附け社へ賽幣し是より恒例と如道新十一日  
鞍とありて是を勤む  
又一説又池田輝政侯より始るといふ延享元年六月十一日みお祭

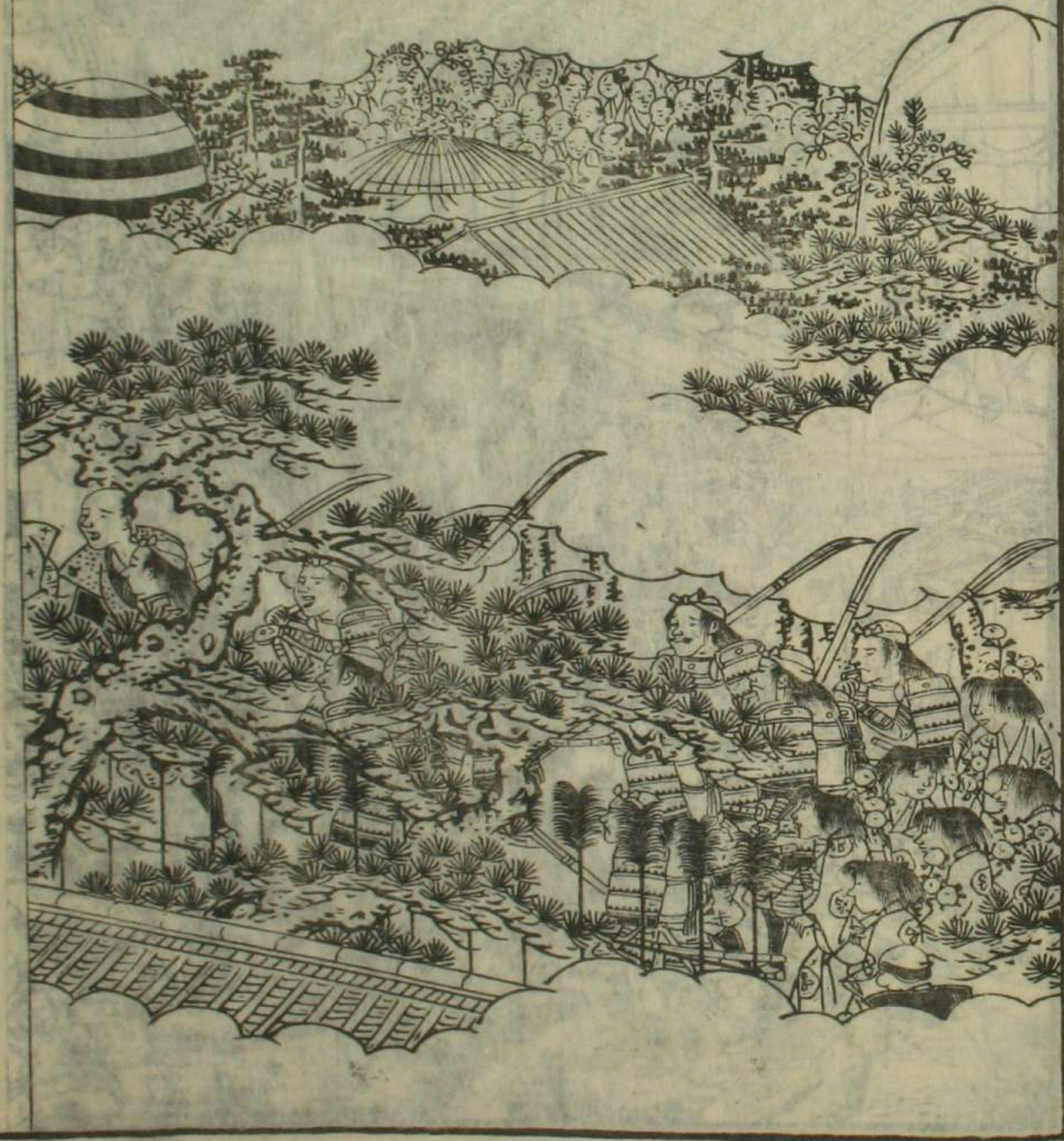
あり其附の滋を松平義知侯の指揮ありとぞ

當社年中の事

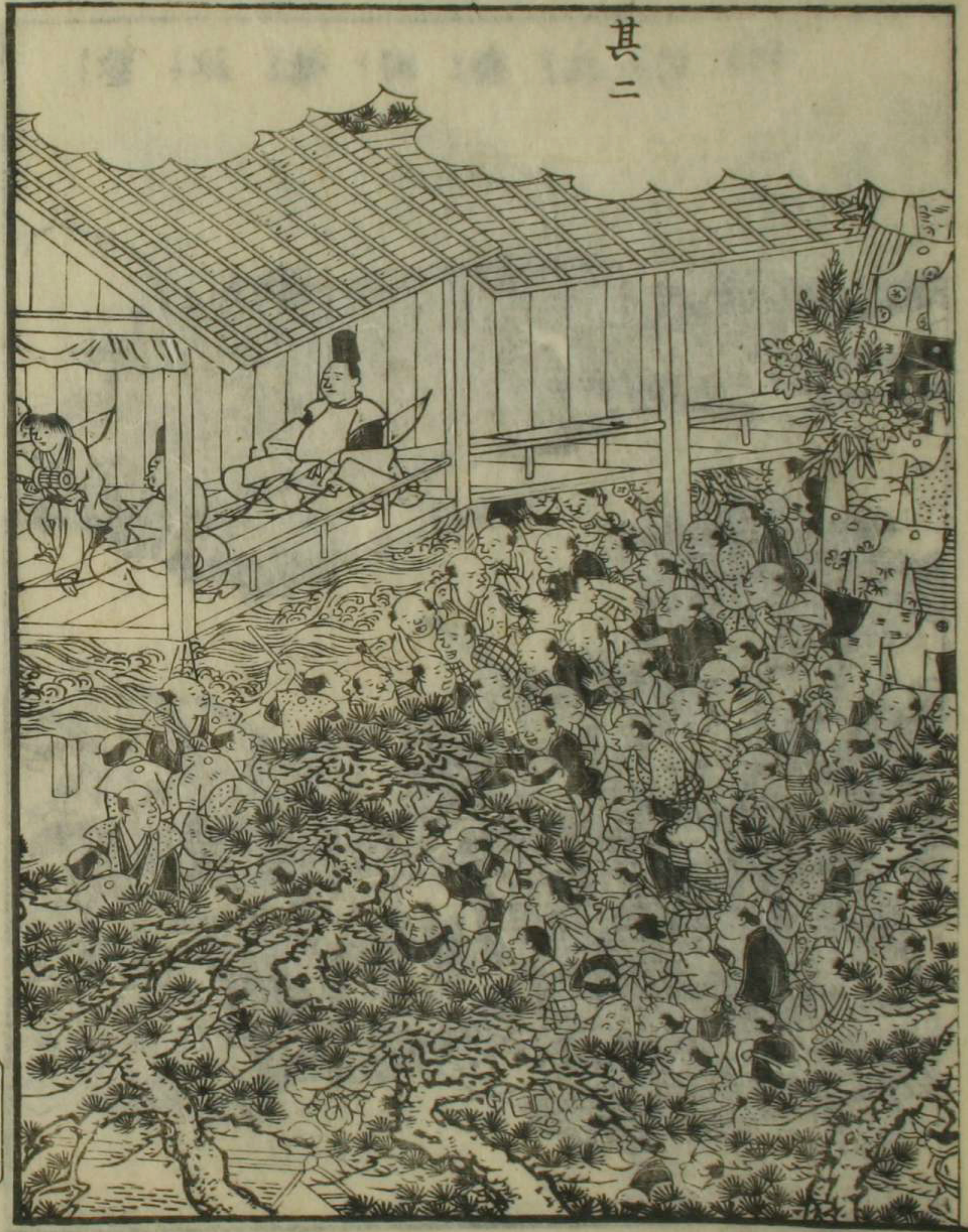
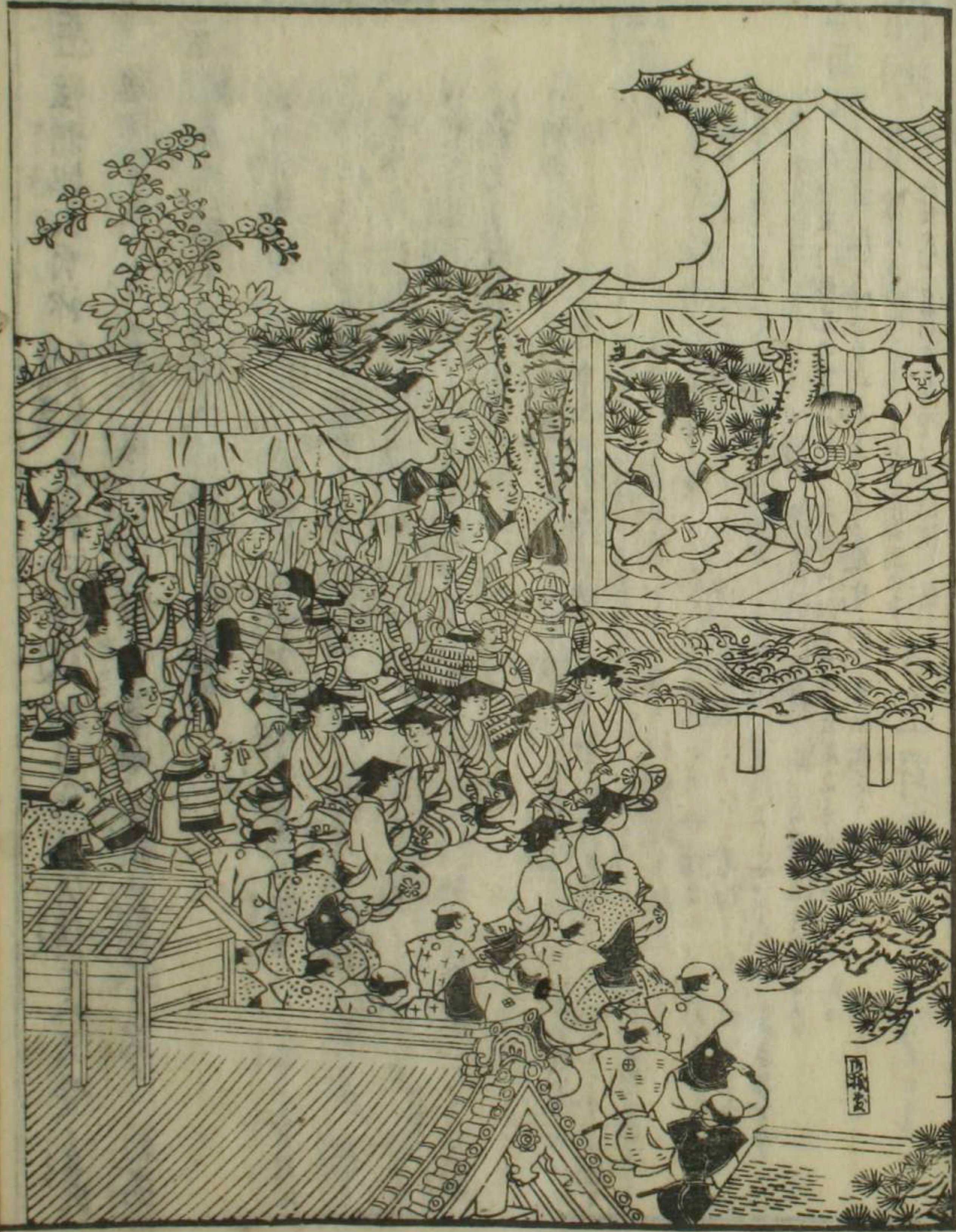
△元日の方拜。元三盤名燈。○七日七種神供子日かじり枝祈りあり。○十五日神  
粥。△三月三日曲水餅をり。△四月初日虫拂。津登の名産。笑み茶。△五月  
五日氏人兵具飾り福り物六ヶ寺の傍盤着法後。田樂書寫山の僧乞  
と勤む。○田樂舞ハケの村民は心む花笠男ハ其笠舞よりつがとつくる  
△六月晦日後。童子擲袋の拵。芽の論。△七月初日童子帳字のあてもの  
篇案ついまつの拵。○十三日より十五日と修羅踊。△八月初日餅飯。九月  
九日六根神の終合。○中のま日鐘。○三山の神の奉後樂。やぶさち。△十月  
中六日神靈祭。百燈。神後くもり。△十二月十五日燈拂。○晦日鬼隊のり。鬼  
つとに方後。鬼石の御法。  
此外餘附あり。○天津池社のあま。○道山後樂。○飾慶の御後。童子のこや  
○神籠り。○飾慶神湯。○雨祈。○文神樂。○水むとび。○居勢。○外御日つ  
逢松原。八重内抄據。久隆奥。藤原。當國。京。松平。長門。一洗。據。上。考。枕。曰  
飾。郡。宛。女。師。惣。社。一。名。居。昔。日。在。母。名。云。三。氏。ヲ。ノ。松。平。云。云  
くま。深。根。て。つ。と。は。し。か。今。夜。と。ま。り。ぬ。あ。の。松。と。り  
右二ツの名を惣社の後日とせしむとせしむは名不しくあり



新嘉坡社時祭禮新列









正一位刑部大明神 雄略傳 奈津二神深秘乃神々以傳て八天堂と号す

池田輝政の産靈神 濃州刑部村大己美命と云ふ後以て久し別當

般若院神を馬場氏所供所長源寺

武日世信は神を老翁とてりて奴隷をお清りて是と恐るる多し多しを  
堪へり奈草綱目云百歳と云れぬ事云れりて衰化して人と思へり  
子年乃老翁猶戀と云はして人の眼より見ゆ事云れりて書し習俗のいひ  
つせと集解云云へりて例を見らるる事云れり何ぞ執教のたぐひと致  
しまふものなりんや

血屋敷

○刑部延喜式云刑部者と云ては漢名を備と云へり二は又刑羅王子  
獄なる所の神宮の中小刀生石流流傳は有る物と輝政大守に附後して是を  
は世治の四女子の口より書して人なる事云れりて攝州志の云ふ願う  
宛政七年行はるる事云れりて世治の事云れりて世治の事云れりて  
あるものなり是を流傳の基しき漢名を備と云へりて世治の事云れり  
とる事云れりて流傳の事云れりて世治の事云れりて世治の事云れり

梅雨松

梅雨松 近手尾山吹雪の松ありて梅雨松と云ふ事云れりて世治の事云れり  
御幸松太夫の松ありて世治の松と云ふ事云れりて世治の松と云ふ事云れり  
今と世治と名の事ありて世治の松と云ふ事云れり

上野澤

所名

日月祠

日月祠 竹の門の外あり今中を流りて 或曰年々天と滲るるのいそ女衆ありて  
け祠高の道過の祠のちりたりありて神祇一族の神々は是の男女みと  
まきとをてりて神祇一族の神々は是の男女みとまきとをてりて神祇一族の神々

雄山

雄山 長庚山 山のふもとありいそ山の事云れりて世治の事云れり  
熊神帝 玉依 三座 人皇七代乃靈天皇皇子若建美命山は恒  
と其子長庚男命乃居流るる事云れりて号くとも 威徳院は白竹宮なり

大歳社

大歳社 日不 奈津雅彦靈命 天満宮 日不池田輝政 愛宕山 日所  
奈津迦遇実智 十二所権現 日不 奈津少名長尊

慈恩寺

慈恩寺 十二所の 奈津親世音

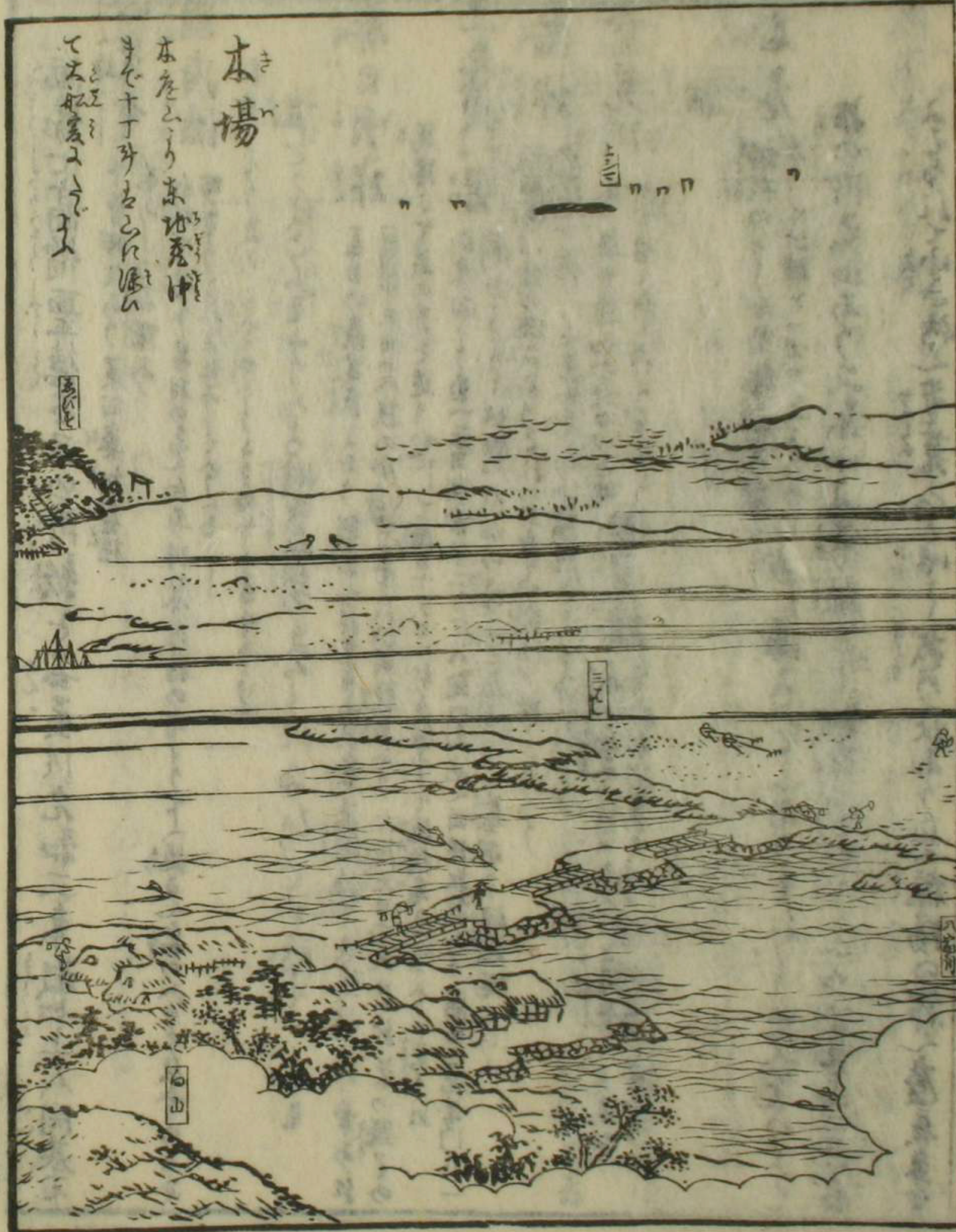
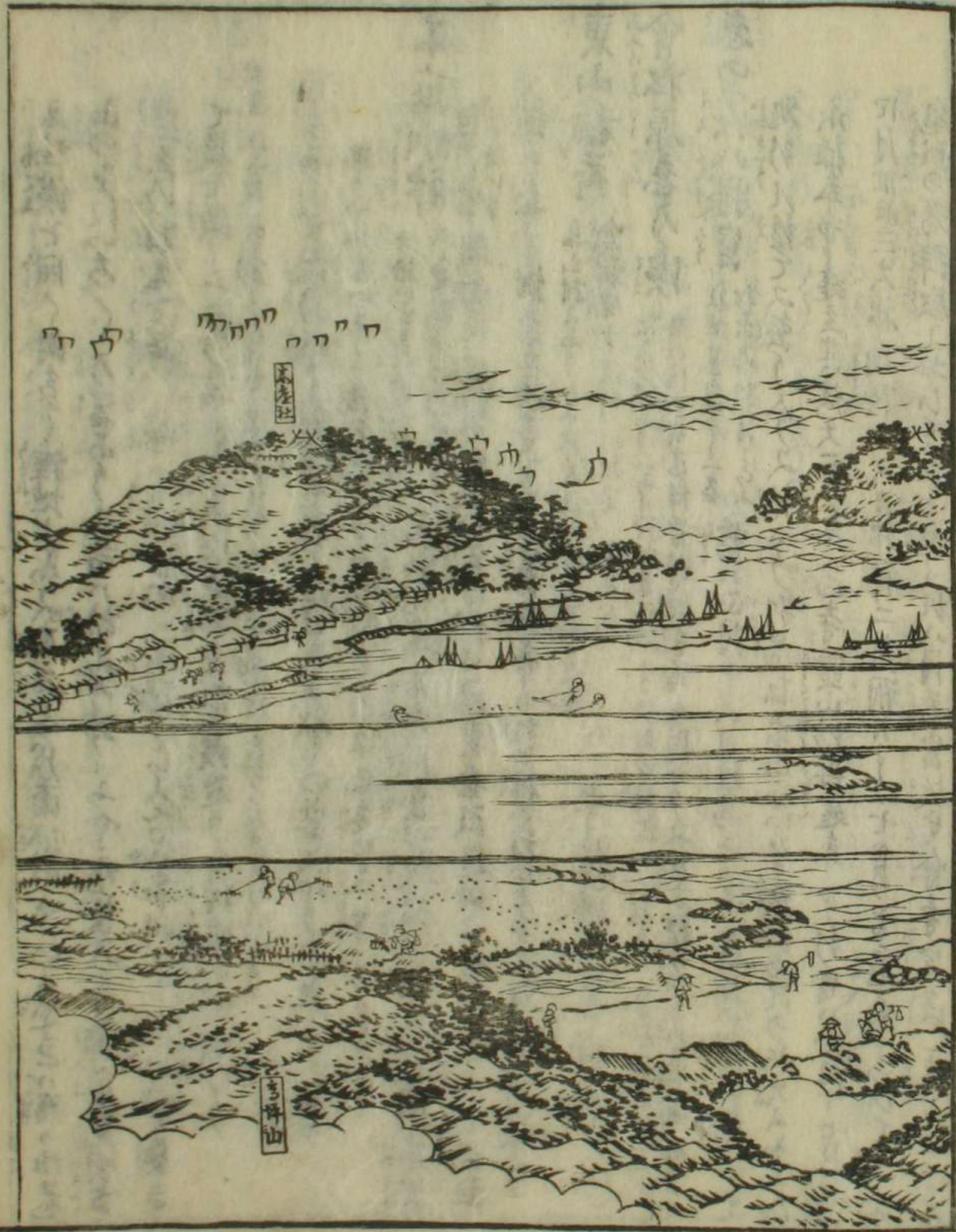
長園長者宅地

長園長者宅地 二階あり今人の 傾城淵 長園の南と云ふ事云れり  
娘流寺 意の流るる事云れりて 松野 山の事云れり









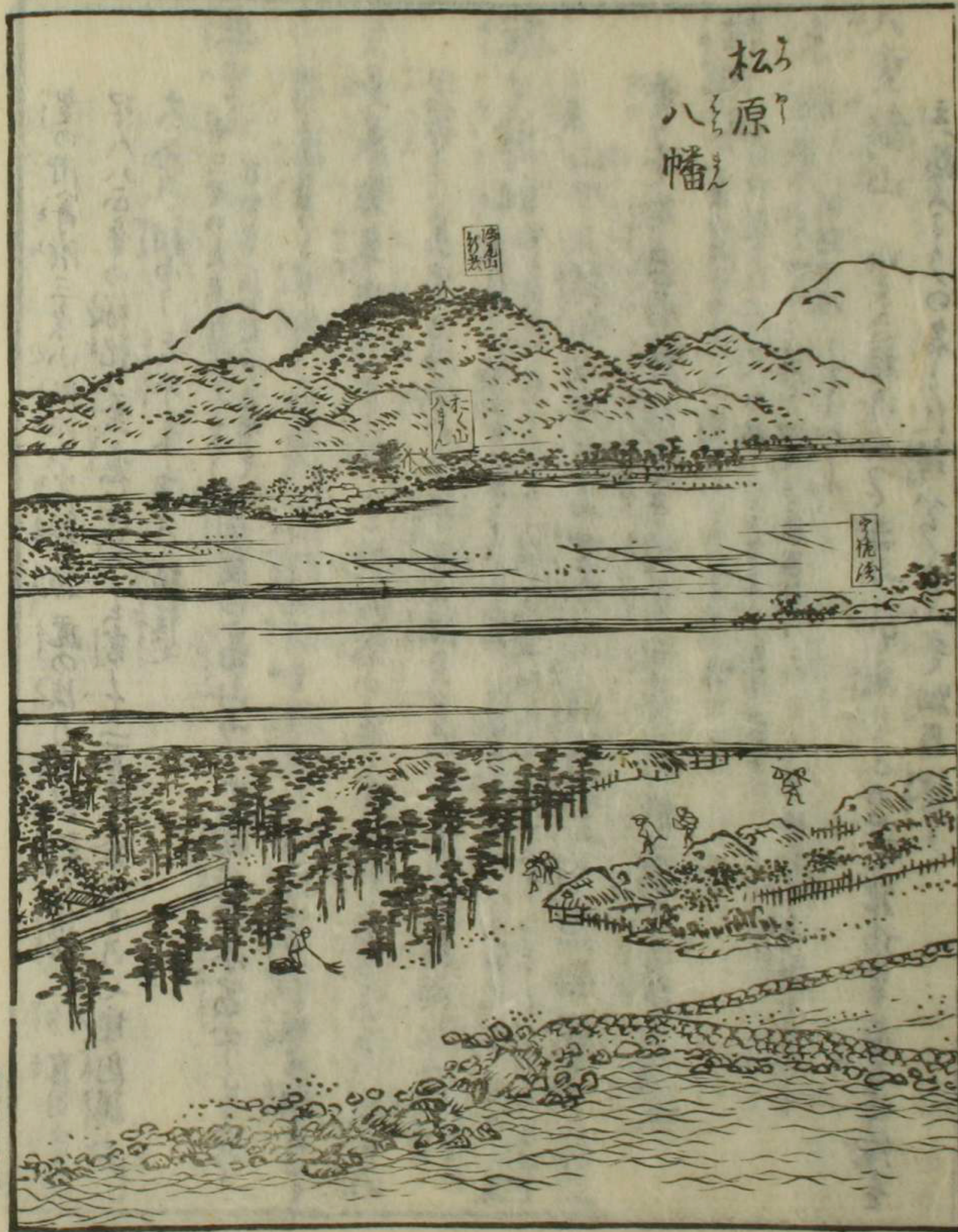
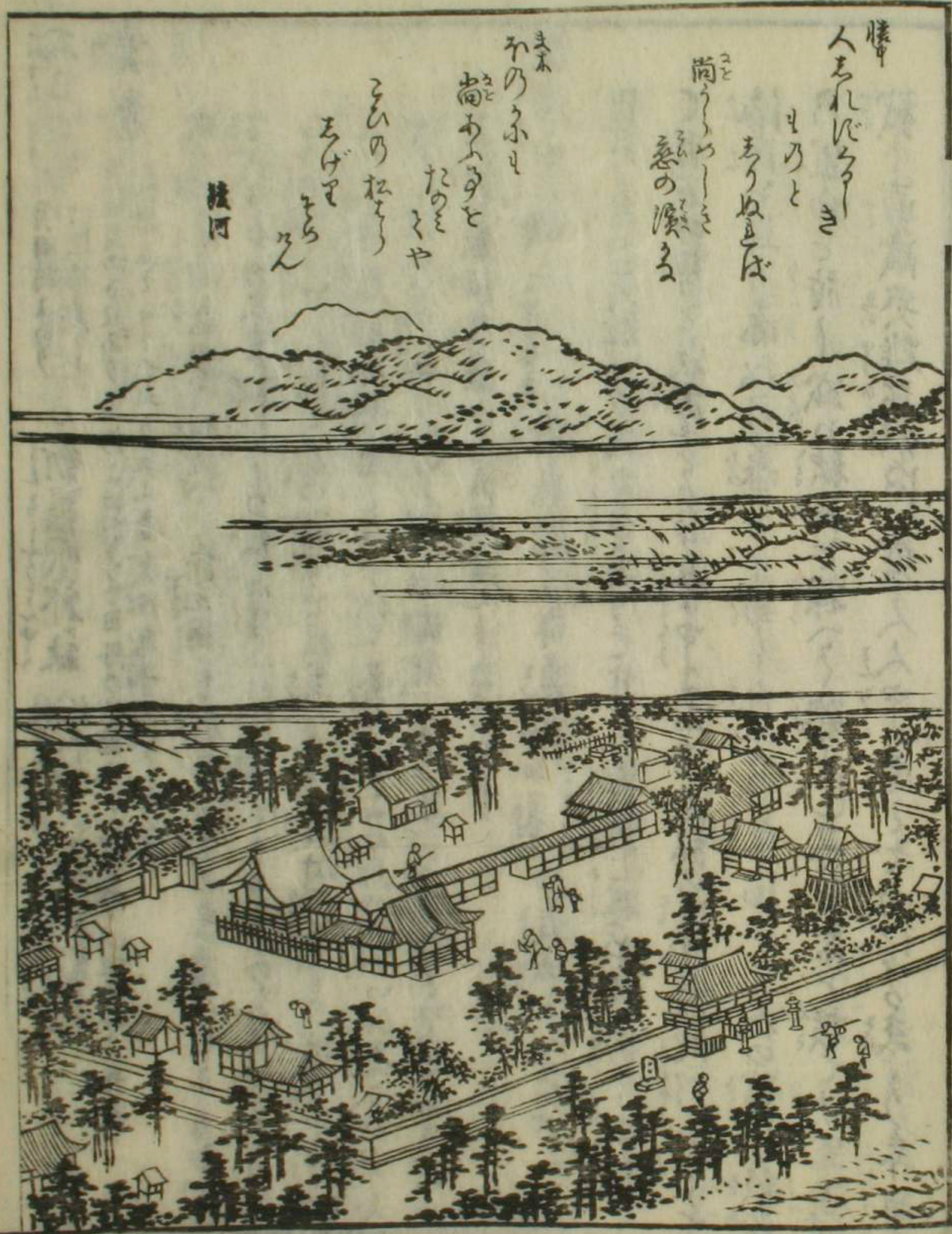
本場

本をより東に  
 舟を十丁舟と  
 して大船を  
 入る





























風蘿堂

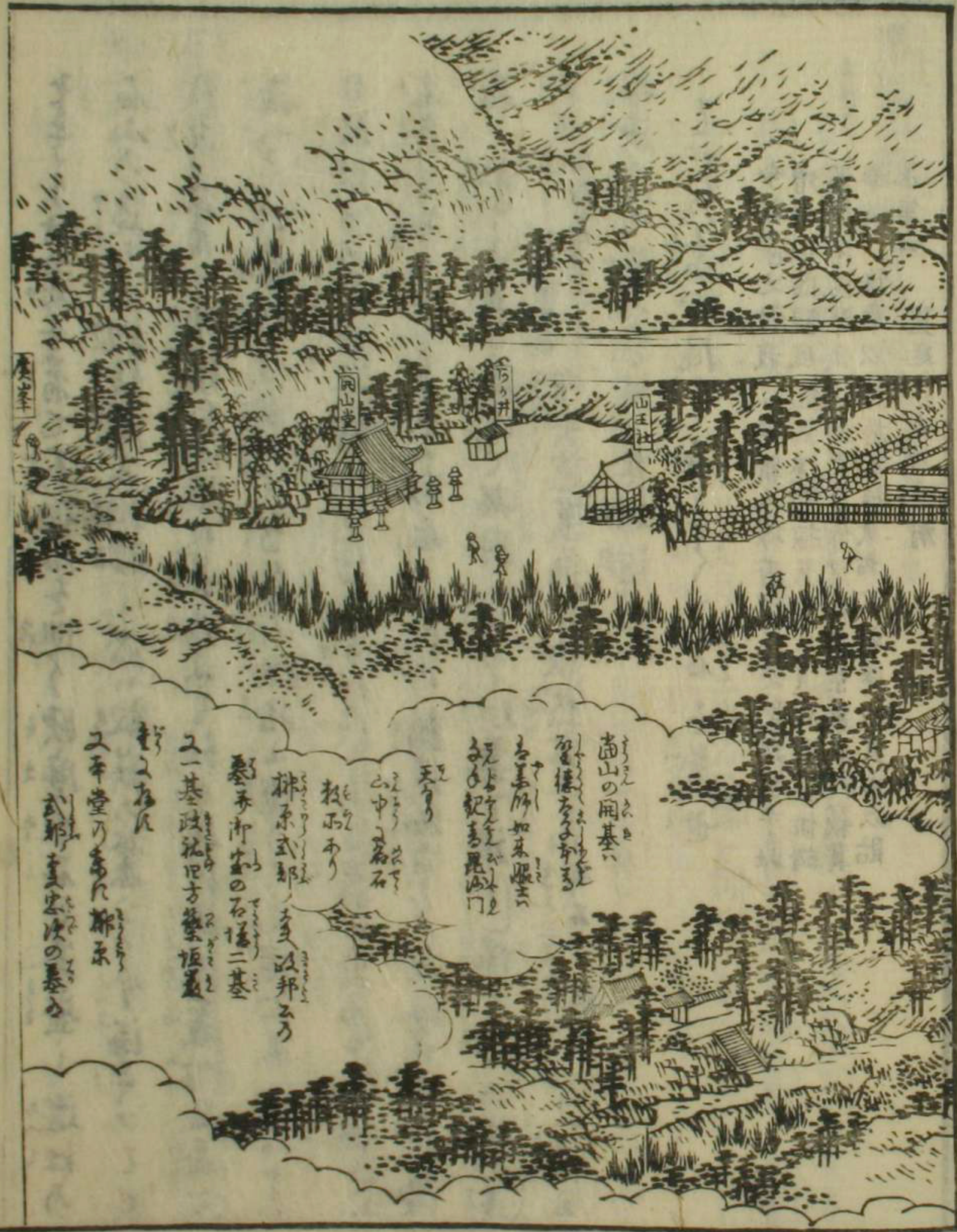
増井山持蘇

既長く守り三ノ  
 中を寸三ノ  
 慶石より百歩むりり上りたるを谷にあり其側を之れは老松森と  
 して種乃多幽みき久本草後洞水に方又流き後ノ慶石の社  
 改書寫山乃山寺連り若少は極慶深飾慶完五師浦沖の中川  
 々々々け島渡治島根の本の向くよりりりり市川右ノ妹谷川  
 壁少は客乃両園と淋くもぬたのしりも此一室又傾けり長  
 安名利の塵と離さるり

芭蕉翁の墓塚 芭蕉翁の墓塚 芭蕉翁の伊州の壽少して上野後堂に仕へ  
 て松尾甚七郎と号し壯年の以官と辭して江府源川芭蕉翁又  
 止修一名と桃李と改り専修進正風神を以て世に鳴る元禄二年  
 弥生の末奥羽と移し加賀國に入北極がり小猿藤して猿蓑の  
 方へより時別又菅笠己が教々と流て藤又賜る

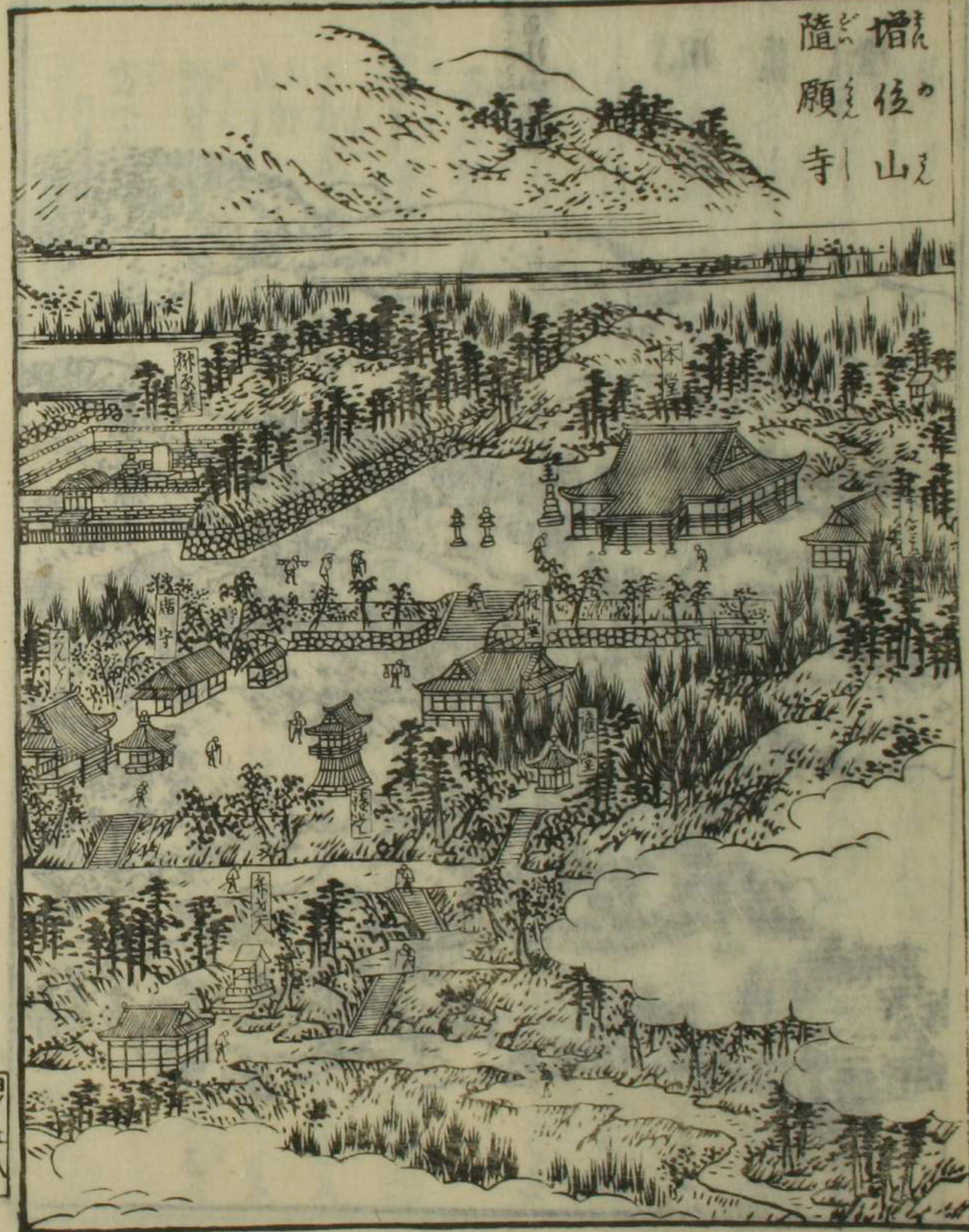
卯辰集  
 白露踏もまどろく 叢乃好湧う那  
 北極





高山の雨基  
 聖徳太子の  
 石室 如來殿  
 天宮  
 山中 石  
 松石  
 林系 武部 多岐 邦  
 聖子 所 出 石 橋 二 基  
 二 基 政 政 田 方 榮 飯 義  
 新 入 石  
 又 平 堂 乃 高 氏 郡 宗  
 武 部 武 忠 次 之 墓 也

増位の  
 隨願寺  
 山





そとよりけを著て大和法を巡り便磨明石と遍歴し近江乃  
石山乃造なる幻住庵み幽棲し或い叡嶽の林居る令満寺のむせ  
成房又寛と洛陽白山通に養庵みも住り又因崎風蘿坊み居と  
構へくけ義縁乃調度なる居人惟物に譲りて元禄七年十月十二  
日難波まよりぬ其後惟然坊朝夕の住りぬるの教を和漢と  
本真をあらして安んぬ居し爾乃彩送物なるい播磨の千山へ附  
属しぬ千山是を携へて姫府に歸りけ義と津とに塚と築き碑と造  
立ん 季しぬ丹頂堂の 中央芭蕉元惟然右千山 碑石了鶴と 又傍に  
姫府侯の教をと給る其碑銘曰  
とせ成系や凡う屋まてくも名も後世

今茲己之秋我 候新入城府聞政之暇迎駕于此  
増位山隨觀風物偶溪邊探蕉叟之遺趾而裁俳詞  
滑稽者流寒風傳聞其事仰望德輝景慕風彩竊冀  
奉其 雅章以置於不朽武備可之遂叙其由以貽  
永年云 寛延己九月申衛

増位山隨願寺賢王院 白田村予くの方  
あり天古宗

寺傳曰 ち子自像と巖に満し後ふ今のち子自像これなり其後聖武帝天平七年  
僧正の基基標の女村にありし時系師の示現を此なり即知延之奉し梵宮  
を彩し建て自業所如春日先月光十二津の像と刻て安んぬ今の本なる是  
なり又又我背像と彫中真用として興隆に安んぬけ時法相宗より一か  
外基の縁並法勢法師博識して法相の法奥と究め又止觀の原に入て  
叡嶽義玄の後身と如其後仁明帝の勅を多く大衆法相を草に名宗  
とあり増位山隨願寺賢王院の勅号と賜けけ時法相宗にして封授大  
伽藍山主となり後を飛流去門の西帝付交る宗篤くして最勝満を  
修飾しる星霜うつて天正年中別不長治の兵火に罹り堂舎煨燼と如  
衆僧僅に廿二人止す及び外基の像と奉して姫洛の西麓山  
に造る 今群衆山 同十三年秀吉に就いて寺院を此地に修補し今乃ぞく  
満堂寺院と建立し是より香煙に方々著し養而も安んぬ  
有明峯 由山赤の峯境内  
峯に安んぬ法印寺跡 安藝法印寺跡 有明の山あり修補し号し圓府に修補し  
三本城赤の嶽と號し修補する軍利を約にむ  
弥高峯 傍位山の山一里斗あり外基の像の礎にありこれと興隆より  
細石のいそわらわしが播磨の弥高乃峯のいやすなる 元補



廣峯牛取天王社

平井村上方あり

系津素盞烏尊

天照神

三大神八王子攝社

白幣社

古伝

軍殿 大己 地養祠 藤原 天社

又河濱王所冠者殿九部の神完多之由社の御法座ハ聖武天皇

平五年三月十八日吉備云河朝の付け地み於て素盞烏尊乃神

詔を蒙り系津又遷て上奏し勅を奉り同日六年又神社と造營

以其後園融院天福三年西峯より廣峯又遷りなる殿后貞觀

十一年山嶺園又遷り 海峯祖國 貞觀八年七月十三日

授攝廣園五位遠素盞烏神後五位下○峯相記洛の祇園遷

ととつり 九部の神廣園社の後あり 廣峯大別當昌俊之鼻祖ハ天津彦彦命

の苗裔又して廣峯用關りの神祇之常ニ武勇と勵み兵術と好

て建武の亂ハ是利ハ厲く系合戦ハ數度の勲功と旌け將軍家の感

狀と賜り制ハ廣峯廳祇を興り家門榮榮して内ハは社置み於

て國家治平武運長久と祈り外ハは村御と業として軍法ハ陣又精  
心と凝り其ハ社務職と兼帯以因茲一山乃社人兵業と揮ひ國戰  
の勢ハを著り以文明乃以赤松が岳陸嶽と接り河津橋とあり天文  
承祿の以中國大ニ亂とく赤松が一族も國郡と兼り神要承良誠合戦  
ハ廣峯新に即居後乃後後ハ歿り承良嶽を守り新に即武功ハ後  
て歿を退け赤松家の感狀と賜る今又傳承せり

白幣山

廣峯のそとあり

平野寺

平井村あり

甲山社

延喜村あり

土山八幡

土山村あり

龜山奉徳寺

龜山村あり

奉徳ハ百三十九石余用基親齋僧人より奉

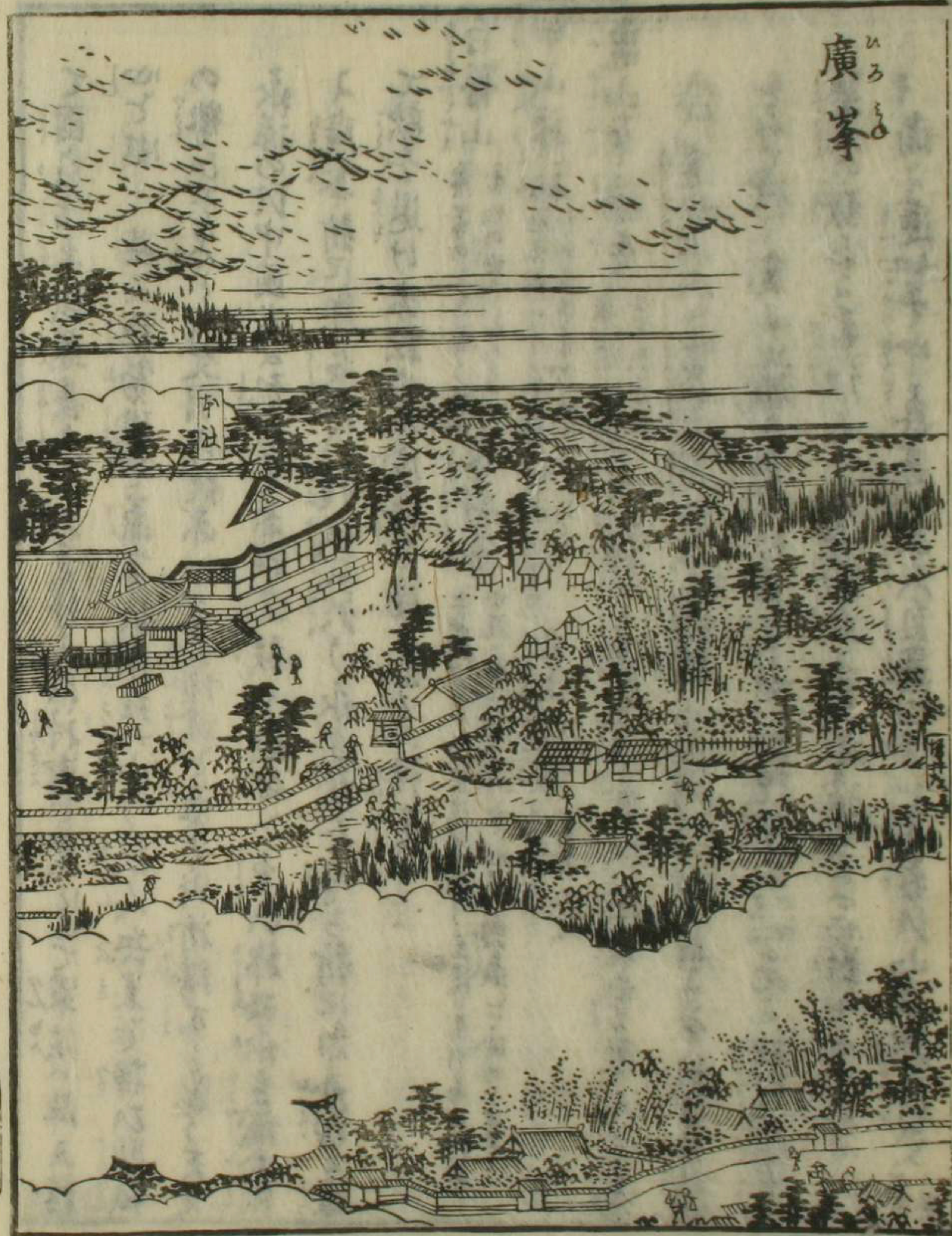
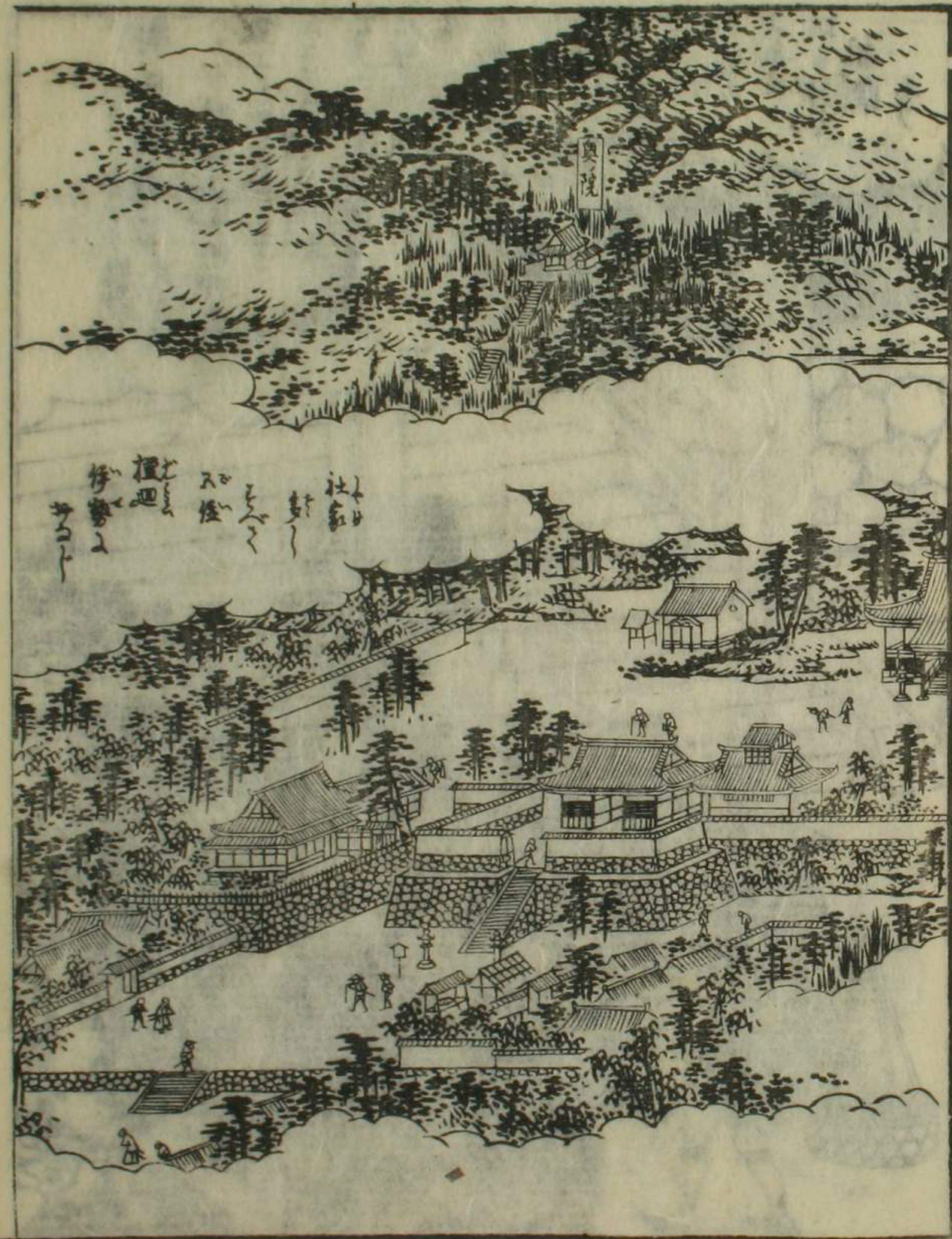
八代蓮如上人ハ實玄上人を以て後繼と成り 第九代實如 承徳奉教寺遷校

を以て代々安止止職とせしむ奉る阿彌陀如來 蓮如 花又祖師親齋

聖人の歎右ハ系傳上人の像餘間ハは聖徳太子の影十字堂名号 蓮如

南ハ蓮如奉中真蓮如上人自畫の像と安徳ハ小又神拜堂 蓮如

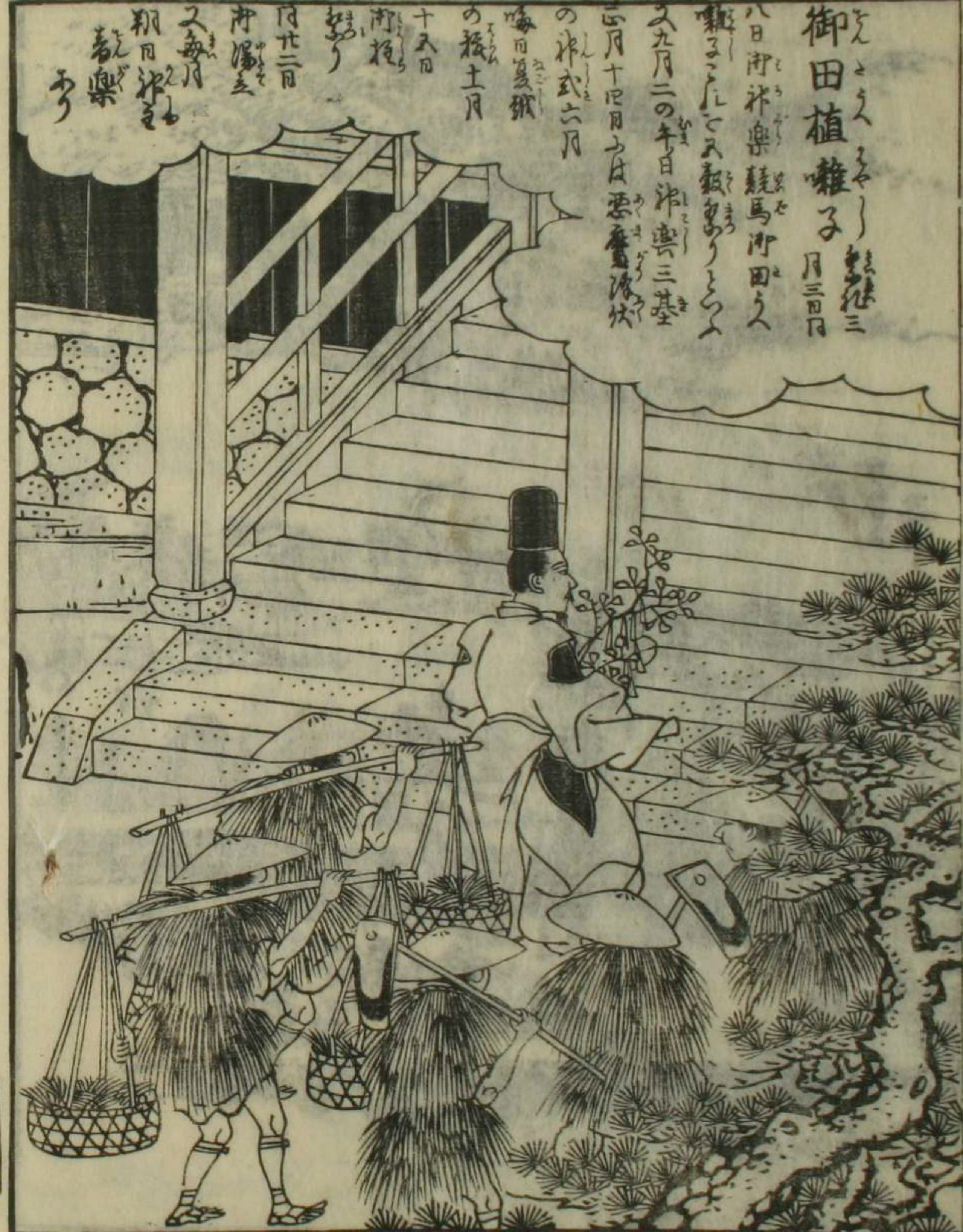








振州  
 考案  
 石として  
 内裏  
 樂所より  
 ことと作  
 以て月毎  
 室治長長の沖津橋の  
 御振物乃神式あり  
 と國の人民  
 作勢親宮乃下白月  
 うろくは寒く流るるの  
 子一より此風俗なり



御田植難子 月三日  
 八日沖津樂競馬沖田久  
 難子ことと天敷ありとらん  
 又九月二の午日沖津興三基  
 正月十日月は要屋流伏  
 の神式二月  
 晦日夏張  
 の振土月  
 十五日  
 沖津  
 又毎月  
 朔日沖津  
 新樂  
 あり



即次又集會所茶石經卷子は貝原林の歌あり其外堂舎莊藤  
なり 今有院の後又亭のふも龜山のたのうーよりけ寺元  
寺傳云 英賀よりて登ようつに

け山の長くもへぬ幼末と龜乃くは名付長う

管編 英賀日記 日中徳寺の西より永享十二年結城合戦の時赤松并武家西海の別史  
の上流と訪くとも英賀遠くて岳社の社と教又編一ありと云

高岳神社 蛤のたありおお社應仁仲哀二帝武内之後崇道盡強天皇  
奉代を孫田美と合せおの山道は長森の非舎人叔王なり 譽田明神 赤藤田村  
安田村ありおお社神島姫 奉代田村 延末村ありおお社二座  
け田又長森垂法あり

鞆園神 安田村ありおお社神島姫 奉代田村 延末村ありおお社二座  
け田又長森垂法あり

手柄山 一名三輪山と云揚多し 今名あり千斗南之精賊軍初は高森水  
山成屋社あり大己妻とあるは傍瀬淵堂沢神扱地ありおお社近年名瀬流氏重香うそ  
云又徴る刀扱ふおお社山麓と銘とるは是なり

八荒神祠 今荒廢して安法古村あり 御館 日郷あり後磯湖  
小祠ありおお社大己妻命 御所清水 日石を日帯書山形奉  
三和大明神 三輪村ありおお社大己妻命 御館 日郷あり後磯湖

村指兵主神社 此村ありおお社大己妻命 御館 日郷あり後磯湖  
合せおの山道は長森の非舎人叔王なり

手野の里 書字川の東にありおお社大己妻命 御館 日郷あり後磯湖  
山陰山陽の野あり 俗傳又曰手野保昌攝摩守より村指兵主

燃山といふに徳養とつ二城三百九十人の属後藤をまじり大勝とて神祈る

きりぎりす又徳養が女房と足どりとのひれ二女ありて長六尺九寸大カ十  
人又徳武の人乃衣服を削る官物と奪ありこれ又依て大徳より  
初ありて徳養と捕へ先け里より瓜切捨て後育と燃山のふりここと

夢花川 一名書山川穴栗郡の中より流れて書字山より西とせり書字山の東と終て  
英賀より海へ入る一流は書字山の東より流れて書字山より西とせり書字山の東と終て  
英賀より海へ入る一流は書字山の東より流れて書字山より西とせり書字山の東と終て

うつふはとていふは攝摩の書花川の流れていふ

まろとていふは攝摩の書花川の流れていふ

まろとていふは攝摩の書花川の流れていふ

青山 山陽道の諸方より八雲御抄に集集海國  
ふ入村中ふありおお社大己妻命 御館 日郷あり後磯湖

御井隈 書字山の西よりありて 書字山の東と終て  
ふ入村中ふありおお社大己妻命 御館 日郷あり後磯湖

人丈石の小麻呂とて大カ草の希なりが暴虐神は路中の通好と好は



又高松の財と奪い王化は流るる小川と表目小野大樹と造して小麻呂が宅と焼其時火中より白狗飛出て大樹と成して退ひたるを大馬のこし大樹神とて愛せ尺刀と授てこれを斬りて小麻呂の飛況せ

青山祠 今祠あり 稲園 家止後で流るる川あり 淡陰澤 秋書例

妻見園 妻山 送次とあり 稲園社 昔山あり 稲園社 昔山あり 稲園社 昔山あり

飾西 飾西の道あり

美奈村古長春武継寺 聖徳太子の供養所 高州より余部の子を

の月と先で我を忘る節を映しつゝの夜家々これを感ぜしは播磨へくし美奈寺の地を下されたる流るる一帯よりして開き免るるの例古今あり

美奈寺薬師 飾西村中人家の後よりあり

英笑日記 村通妻白一節

聞より妙なる寺乃先とては極端の心とて世も来はる

大蔵寺 飾西村 實法寺 一宮社 今小祠あり

法傳寺 余部の左藤田村にあり 建礼門院の本紀も

網敷天神 津田村にあり 昔津西近乃所村にあり 網敷天神を祀りて其上息懸りて極盛なり 且日天満宮の社後 猶も津田と申し 且とぞ小桑家宗所撰に

加茂祠 英笑村にあり 傍に英笑村社あり 古画に傳記あり

英笑城址 英笑村中 漢村にあり 妙三本馬路通道の居残りあり 家ハ代おぼれて天正

御柴小市 御柴の長三子余誘ててよせ美我ひくは城兵とらんぬやみん大御所

又銘の名もいふ事あり 又英笑の市とあり 八日奉祀 餅香乃市と見えてはく出

白牛 厨村の長が家に唯雄と書本伝天下の希物なり 近年江府岩手守朝妻の白

大樹清水 英笑の南にあり

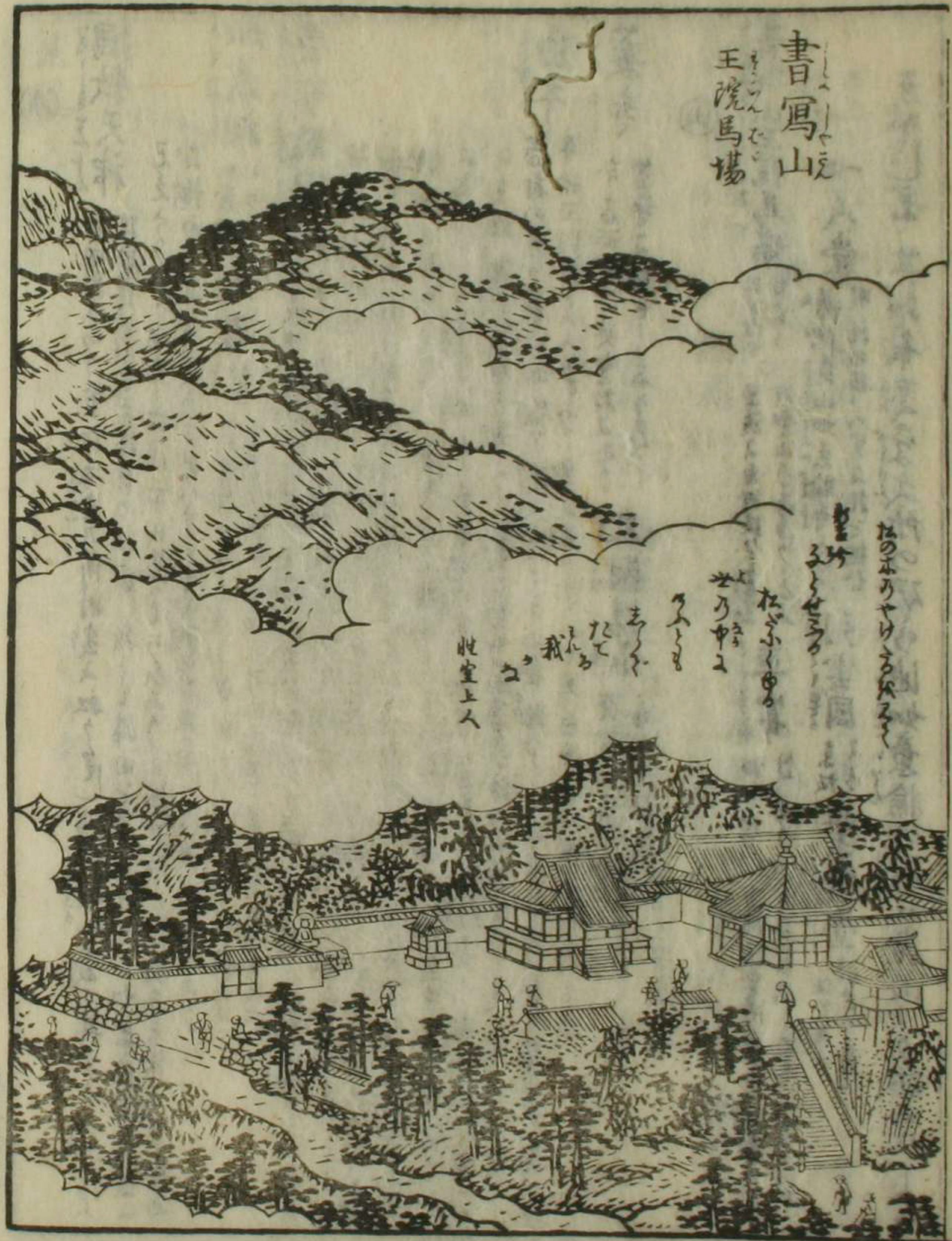
山

書寫山王院馬場 田舎村の 里流より河原に書寫山 車寄 板中口 自河原書寫山の風景とあり

女人堂 善池山如志輪寺にあり 引雲園 善池山にあり 紫雲堂 休所あり

急がし岩 其外希芝受文所の硯池如意輪の跡ハ山より西小八丁

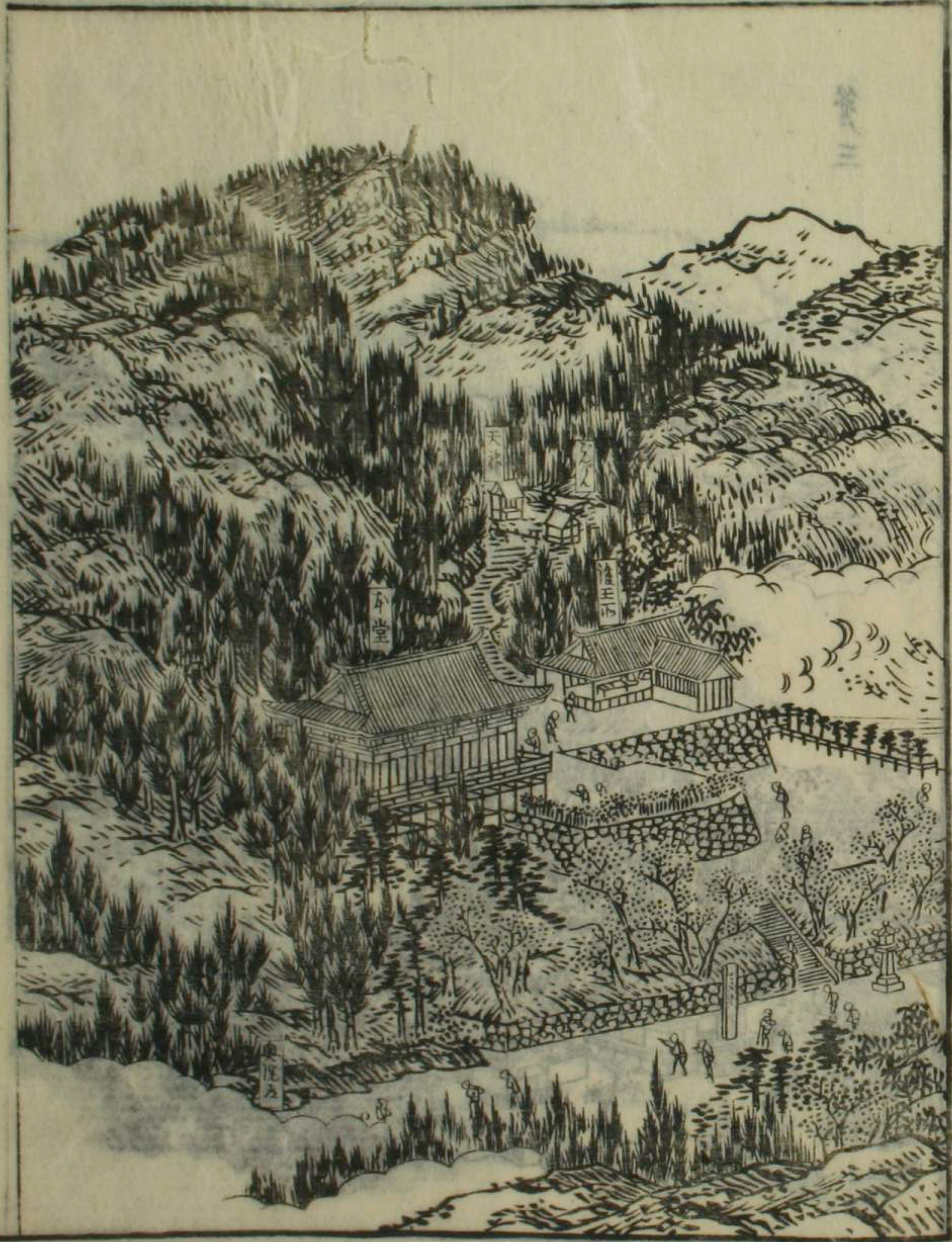




書寫山  
王院馬場

松のふりやけちなる  
ふりやけちなる  
松のふりやけちなる  
せりやけちなる  
ふりやけちなる  
たて  
我  
世室上人





書寫山  
圓教寺

第二

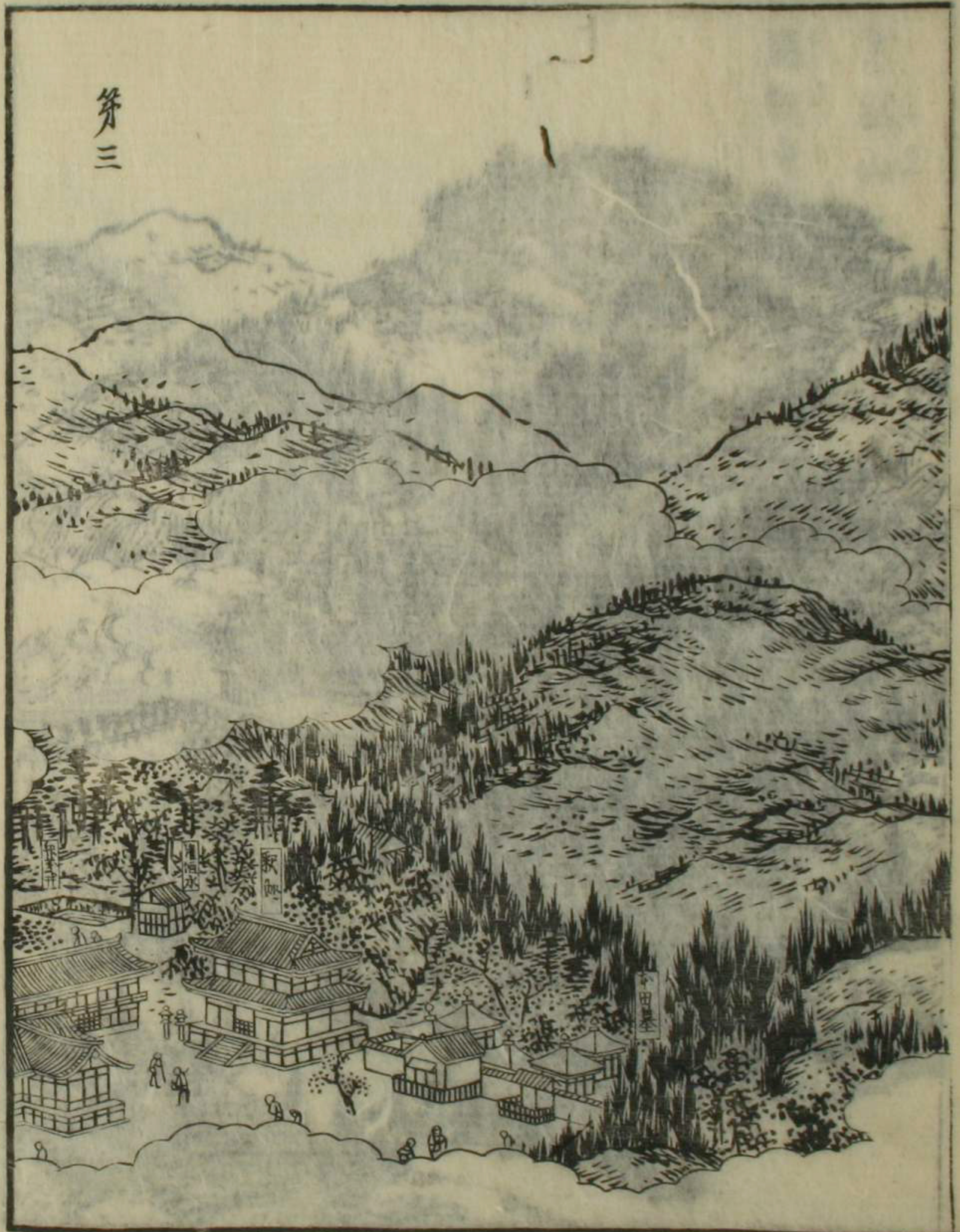


四ノ三十六





第三



四三十七



坂中の噴石砥石坂乃古法亦教くゆ等とる小不道書寫山傍院今本坊三十院  
書寫山圓教寺飾西郡坂本村の上方あり天石宗 本寺如意輪觀世音夫六の像 西國二十七番札所

一條院永延二年の草創開山の性空上人の本寺如意輪の像の性空菴

居のまじゆ傍に極桃の二樹あり一日天人降りて樹とれく偈と他つて曰

誓有は本如意輪法蔵有勝後李新羅社生極樂觀一切衆生心所念 室師其技と成て根掘よ成て如意輪大

悲の像と造りて長一尺八寸安送紗者又令じて是と刻しむ元亨釋去

よける像今後内収む上人頌曰美而希緒 爾草隱士 以之為樂 不置度之

性空上人俗名仲左 大中五年攝善根の子之仲左其妙り及承時朝時朝の

時朝嘗て一つの奇觀と畜ふ珍龍して家龍に養ひ官爵拜任とる

毎みこれを視る仲左は視んととれとも許さず時朝又思あり

年十歳仲左を嚙く時朝外みゆる龍が窺みて密に首を被く杉

しも人畜も驚き遠て送よ入るるとる小深川に流して破る

仲左大さ小忍る児童仲左よつて中龍に流るくつるるとしてこれを

促る時朝大に怒りて曰此觀の鼻祖鎌足連後吉の律に接り多し

代り他人て吾に及ぶ汝家實を破壊する家の滅亡と指く邪非

やん其罪輝くはく怒ら首と刎り仲左大に悲しとまより

憂心附二年 三十六 人乃あらざる日州霧島山又彦彦結結ひ若幼食結藤と

忘さされしも常々面を微笑相あり日州み居るるに年はして龍元亨

背振山に接り其後書寫山を開き寛弘二年三月十日九十八の

著聞集云法皇書寫山に幸以對面乃中畫工をして上人の像と

圓せむ付み山動き地震法皇怒怖法皇性空の目怪むるを

我像と寫しむる法皇より歎み小き法皇あり畫工を以ていささきを

圖せば震動法皇の聲と為し法皇飛で庭の飛法皇人これを感

信以今又空ありあり

○寺住目花山法皇上人の像と感して寛弘二年七月小仙碑とせりしては出に新奉



是より入其後長保二年三月八日奉て傳奉の附上人の通宝山餘勸寺より  
 法皇御より奉りて傳奉の附上人の通宝山餘勸寺より  
 源氏隆和と稱して傳奉の附上人の通宝山餘勸寺より  
 上人九十三歳の傳奉の附上人の通宝山餘勸寺より  
 後醍醐天皇御願の附上人の通宝山餘勸寺より  
 深き凡諸を巡礼の附上人の通宝山餘勸寺より  
 を祈りて奉りて傳奉の附上人の通宝山餘勸寺より  
 一の他の五人を其外上人と奉りて傳奉の附上人の通宝山餘勸寺より  
 日一山峯上。奉りて傳奉の附上人の通宝山餘勸寺より

坂本城址 金部西 城より赤松虎系を満祐之明德の系合致す武功  
 を旗くまより風風熾んうて歡樂の余書寫の林麓に平城を築き

是と河構(河所)も云々の付る軍 滿祐が善信と惡信の  
 不承を没収せらるべきは 滿祐大に怒りて遂に源満と企て一族を  
 具へ上洛し西河院の舞臺に於て後樂と傳して軍を振付し  
 云家武家の見物多きと兼て工ものりるべし入真の守り馬を放ち  
 腹中と移るせ其時滿祐が家臣五郎教祐虎馬女則於徐々と  
 立出る軍を守護する俤として義教を弑し首を袖に包みて良

等々持せ仰りたる暴惡を道にせりしは

水田城址 西坂 城より赤松虎馬女則類又ハ城守於別春加吉元年

六月廿二日滿祐義教を討ちて後命令して日本と離れ朝鮮に渡る

揖保ハ稻穂之 日守丸後といはれと訓也

川原村 左田系村あり 黒園明神 左田系村あり

黒園天神 日不あり 竹川 左田系村あり

樂々天神 左田系村あり 樂々山極樂寺送跡 左田系村あり

左田寺 左田系村あり 楯岩城址 左田系村あり

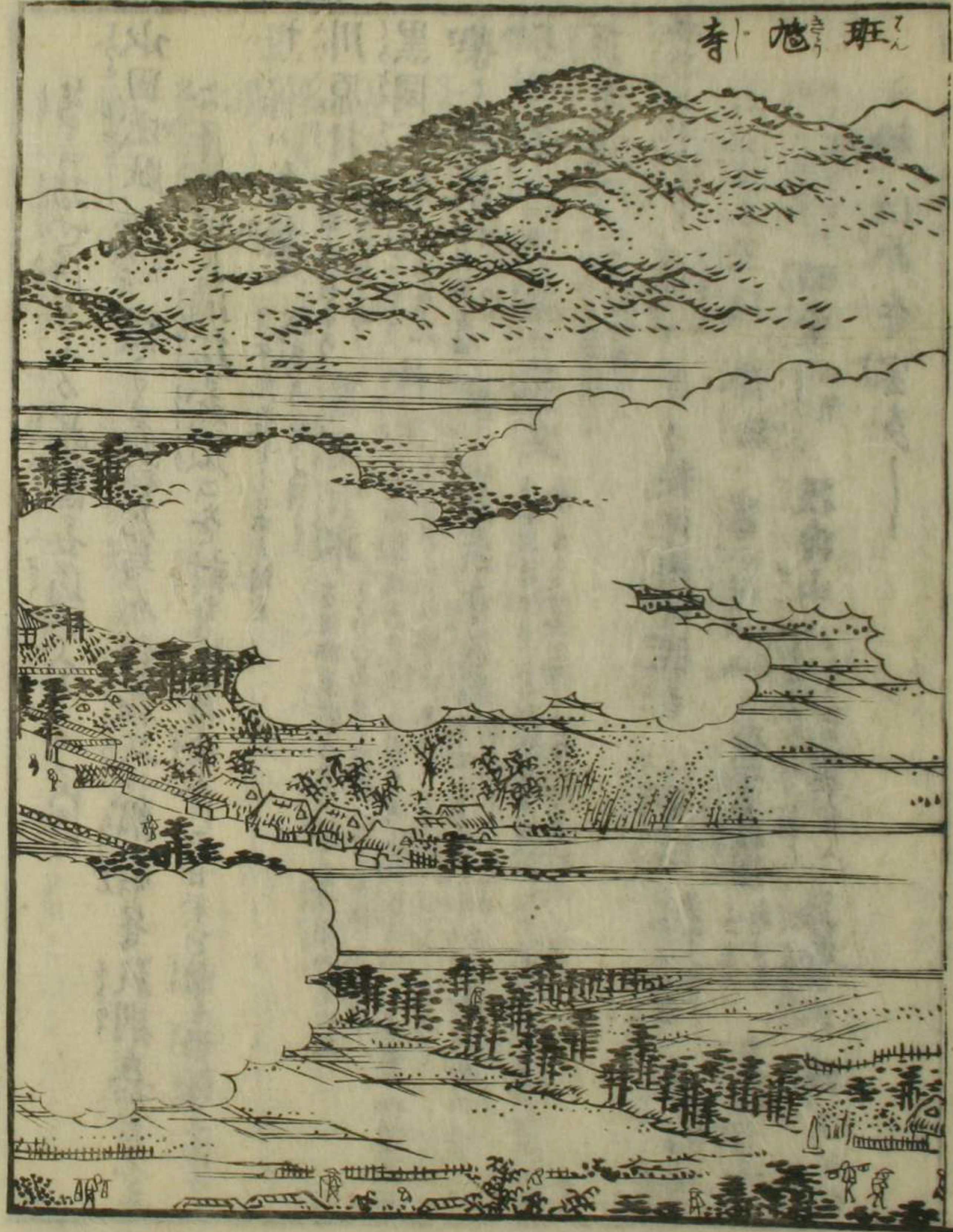
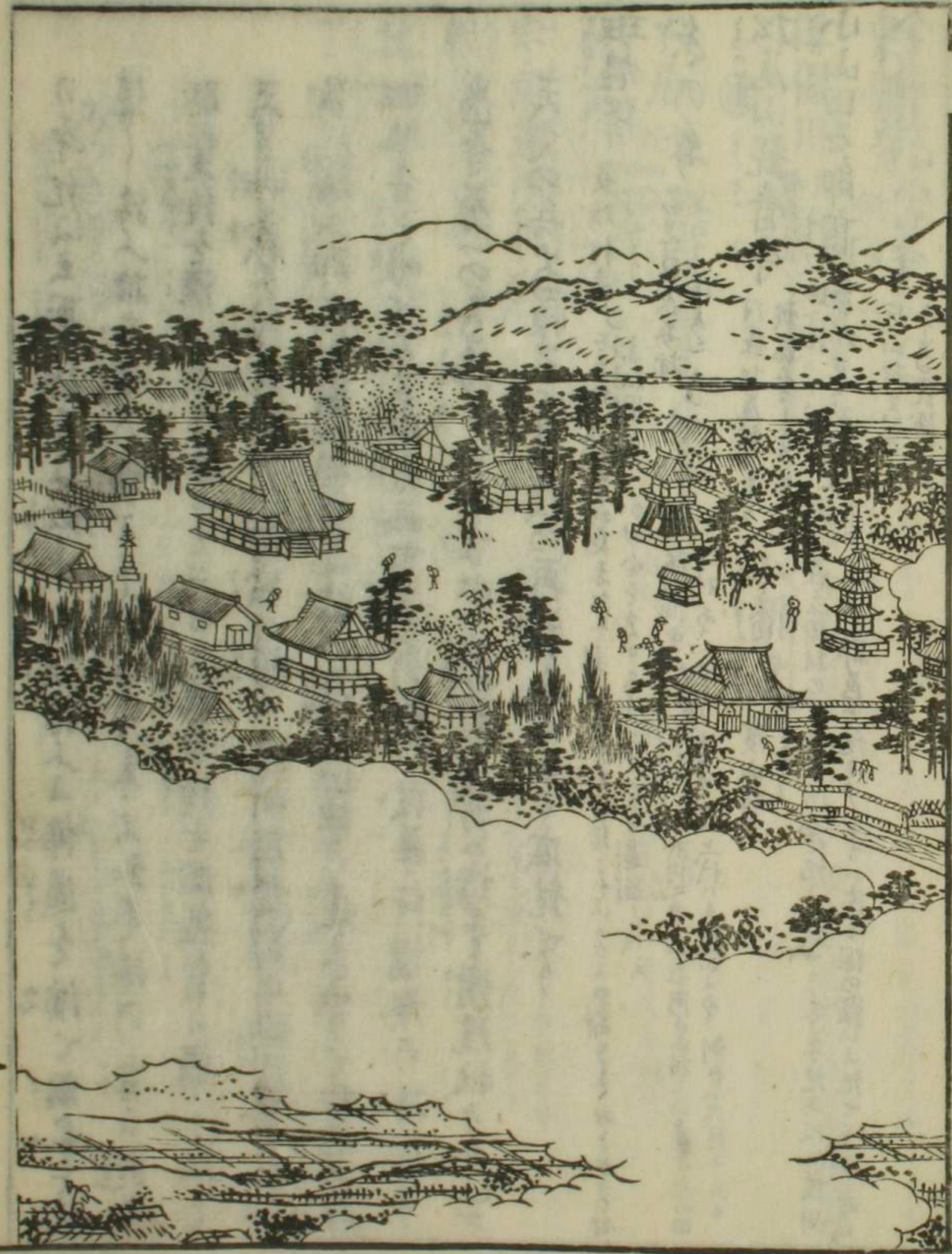
聖應山班地寺 能釋有 本寺釋迦藥師觀音 三層塔

山王社二王門 禮樓 富小川 のふ 聖靈權現 おんあまの

昭堂 おんあまの 檀特山 おんあまの 弘教系松 おんあまの

七橋 此外寺室多し







日本紀云聖徳太子政中を撰給ふは佛道を演て國を補  
佐し給ふ推古帝乃勅よりて十三年大和を浦の宮に於て  
勝鬘經を講したまふこと三日又法華經と圖其宮に講したまふ  
天皇妙法を信受し給ふ御感の修り播州揖徳郡の水田百町を  
子に賜ふ即大和國斑鳩宮に納る其後此地に建立ありて斑鳩の法  
斑鳩寺と名せ給ふ御自画世五支の歌は法華經講演の律相あり  
當寺第一の寫像にして是堂は安徳以後の諸僧院壯方りしが  
天文の兵火罹りて其後の再營今の如く成就せり

斑鳩釋 長徳維末 ○左平記云朝野義貞赤松を討んとて六万余騎を率ていづるの密まを少をさる付  
の律方り 赤松國心よりかけ合をさるありて十餘日逗留と云  
糸の井 石見津奈井村 久々井 廣山御中 阿宗神社 式内之廣山莊阿宗村ありて其地は  
松尾山觀音寺 日蓮松尾村あり 八幡宮 廣山村  
小山回石即高家別荘麥地 廣山莊之園村の里長の所務記よりて平元より其地は只播州  
金輪山小宅寺 斤山村志言宗 卒する其地門更

乘願寺 門前村昔大寺今小池とある大徳園所出石の地あり近年繁栄大徳寺より  
企あり其やき流し小池を免許あり先修一人後修と

揖保川 揖保東西の界に網原あり源の完栗郡志保より出て伊曾三谷又十波と井來河内  
徳谷法橋公文川完栗郡志保合て長と十口里

去居 細干郷東西三村より東西の間に若くはありて松の浦ありしが今去居と云ふ  
然見 日向を田の南あり里邊に  
宇須賀渡祠 細干宮津八幡宮に  
朝日山大日寺 後母の庄朝日宮村  
林松寺 上日向にあり寺内右左松あり松あり  
丁村 後母の庄よりあり 傳曰後醍醐天皇當國初幸の時赤松家より下知  
志く丁のより十ヶ村を撰出たるを内よりけ付人別は後八文下より

丁のより十ヶ村を撰出たるを内よりけ付人別は後八文下より  
みつき物と云ふよりありてかきつみまの里人かきつみまなり  
け付の枝中二ヶ郷と云ふよりありてけ付の地と云ふなり



陣屋

陣屋 沖渡村揖保川川尻  
あり在る辰辰の川あり

化糖坂

化糖坂 新庄家あり今銀  
座の座にあり

家島

家島 揖保郡之屋敷八雲御  
又累代の敷

一名御牧乃浦は島に播南の陸地を去る  
或ハ三里或ハ五里あり上は麓家島より下は院家島より東西八里

南ハ三里其間ハ大小の島二十餘箇所都て家島又連る陸奥松橋

又相傳るの家の名を以て江湾三方よりかゝりて敷より

室より又相傳る室も家の名を以て船の泊りしきを以て室又家とは

よりいさるる洪濤大風よりとも船を安んずるは是より板舟と

も出せりされとも是も島を以て千帆一附又襲り一附又教以奥

の群より出て多し故に居る者多し其後之流は天竺の泉水

居るが故に因縁集に繪傳るといふ用也

家島津社

家島津社 家島津あり延喜式津名帳  
名津尚國大社二十に居るの内

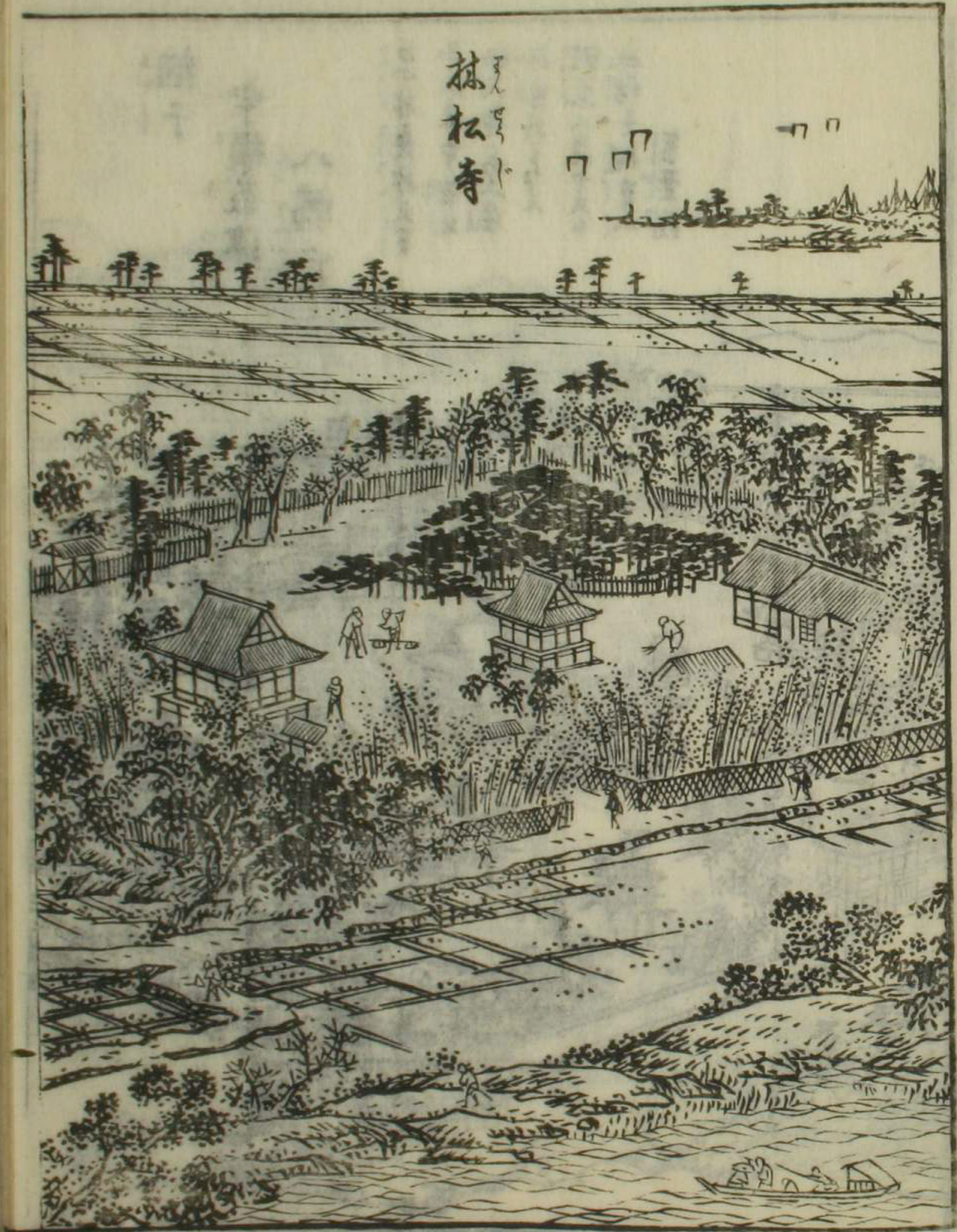
家島津社 家島津あり延喜式津名帳  
名津尚國大社二十に居るの内

産之去人白誓大明神と稱す天満宮 家島津天満宮あり

赤坂清水

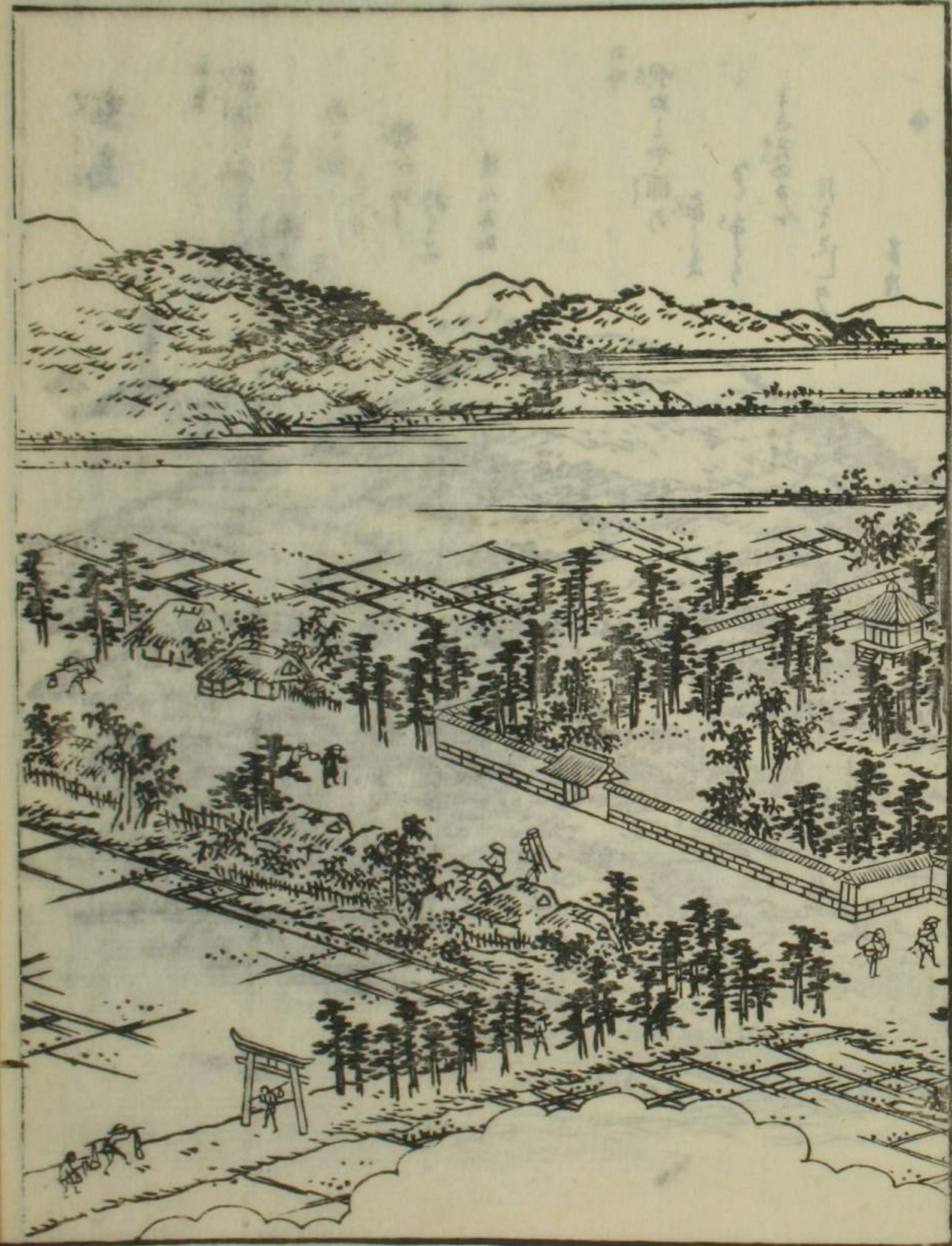
赤坂清水 家島津ありの清水あり俗に法道仙人の湯と云ふ

山王権現 家島津あり



林松寺









家島

玉島  
家島の石

あゝ  
あゝ

あゝ  
あゝ

あゝ  
あゝ

玉島  
あゝ  
あゝ

あゝ  
あゝ

あゝ  
あゝ

あゝ

家島

家島

家島

家島





丹麻崎

又麻崎の東にありて是  
 人家に多樹あり  
 生いさる番人二人あり  
 国々の旗をたてて  
 必をとりぬる麻多  
 く候

松島

家崎南三里より  
 此の島多一松  
 崎牧崎の崎より

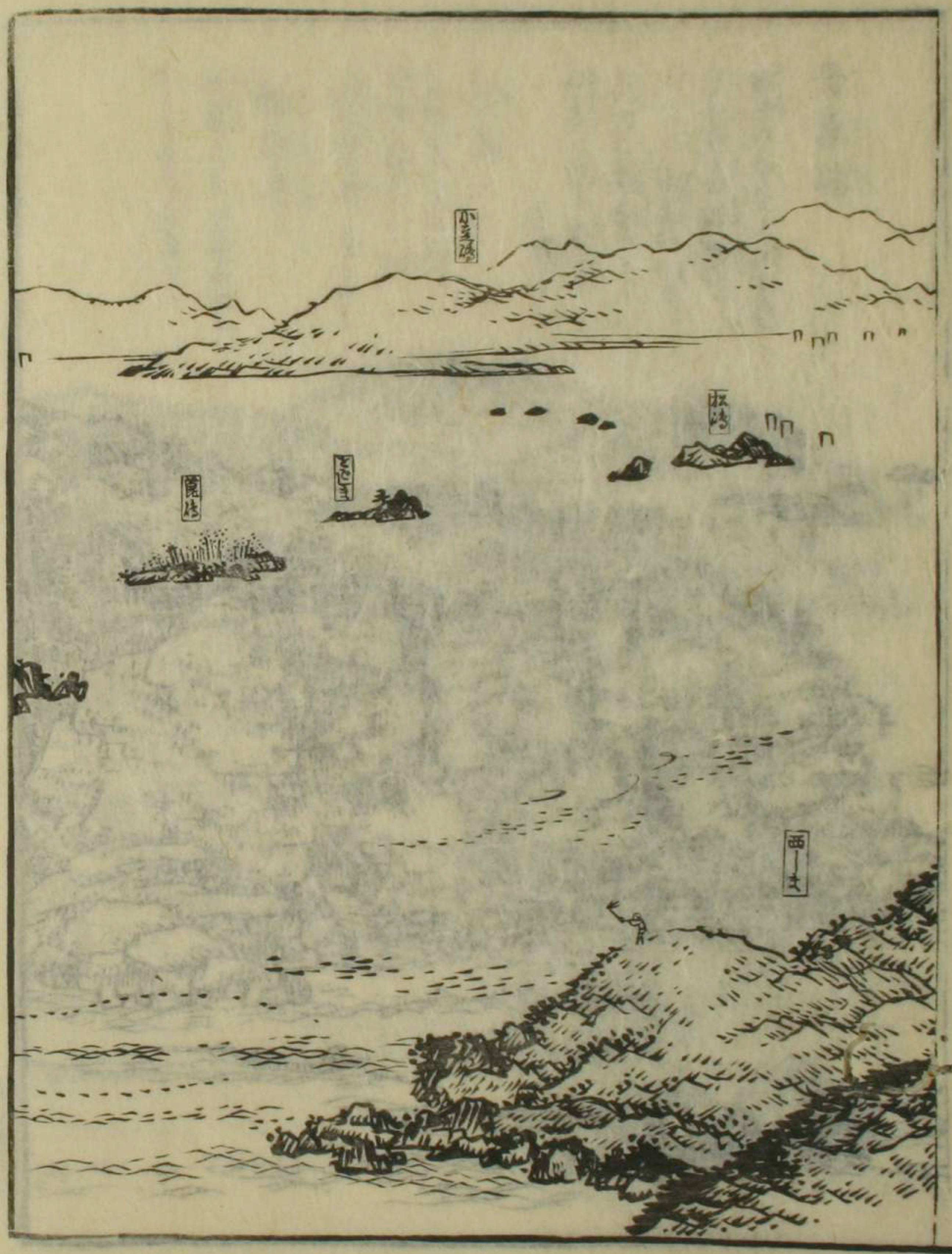
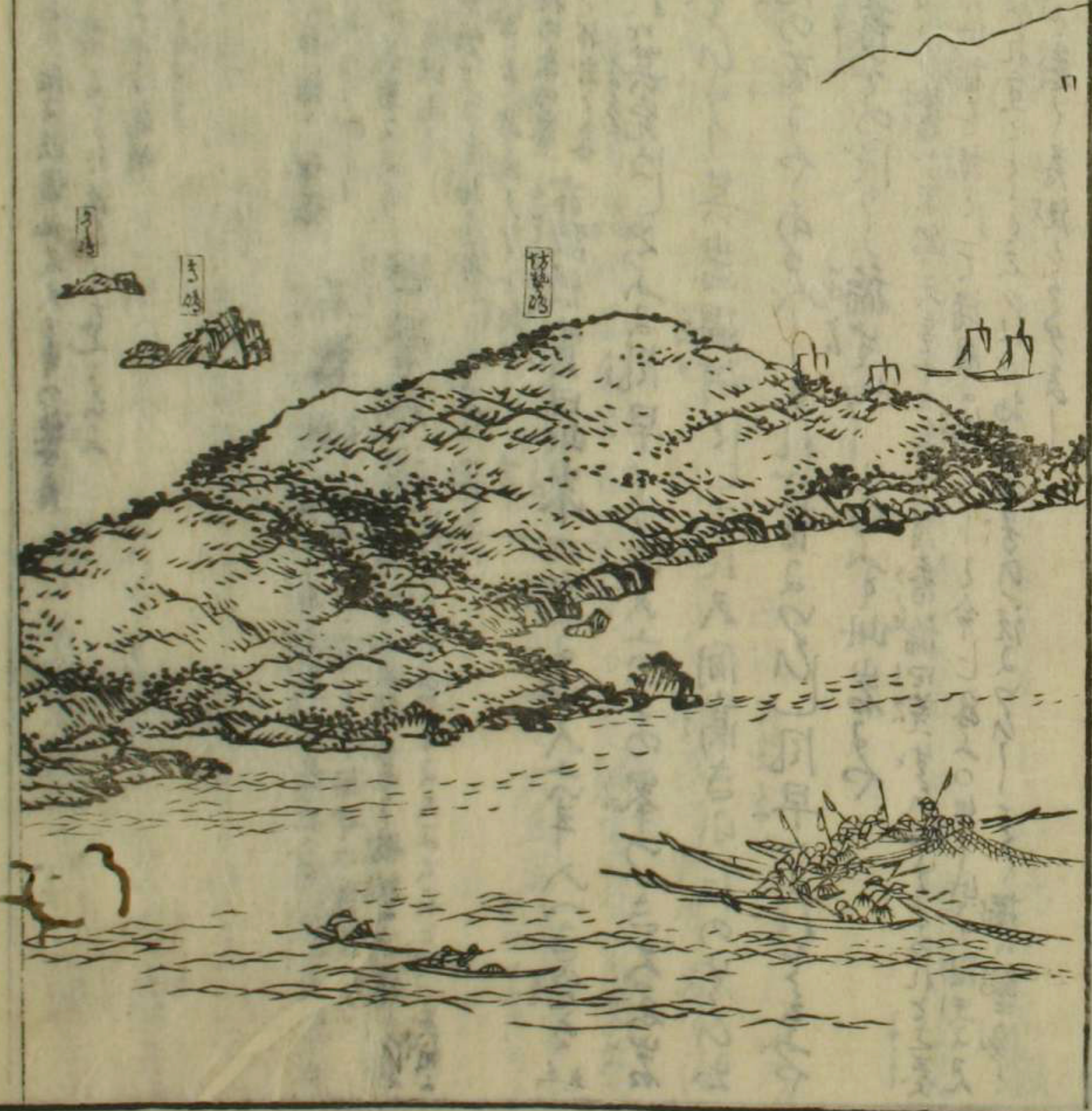
鞍掛崎

丹麻の東にありて  
 かしらよりて候





楯ヶ崎  
 丹麻崎の  
 波の残るを  
 坊勢島  
 坊勢寺の遺蹟  
 湯成流の御宇  
 元徳七年比叡山  
 小舟相殘る是傍  
 都は傳は死流乃  
 時美創一筋の  
 旧趾方り  
 板橋 佛岩  
 八尋岩  
 尾崎西郎と云て  
 海中あり板屋村より  
 江と云ふ三丁あり





観音崎

家傳あり俗は法通仙人大日寺の觀音  
を刻し靈本とせ給ひしと云ふ

長井浦

家傳あり揚州  
より日名なり

山

相野

大市郷相野村飾之伊保  
の畷と云ふ也

石鞍

鞍之形を石に倣ふ  
石を以て造り相野の傍あり

白鳥の園

おじの南あり  
今大池あり

破磐石祠

大市郷西原村あり  
破磐石と云ふ

風早嶺

伊保村の東の峯  
今登りて其の完は

右路便覽曰此峯の岩は水入六斗入  
今登りて其の完は之より凡早より小又六丁の峯つぎ大黒岩

乃頂み松生ひたり其岩礪礪としてに又間高き小松の生ひ出

たりは其完の石やあるべし昔はつひし凡早の石と云ふ

稻根

大市郷峯相山の麓に宗祇天皇十三年九月香稻に差生ひ出たりと云ふ  
一伝はつひし稻を種として諸國に傳へりといふは命に給ふ也

揖保の稻穂なり印南の稻目とて赤穂赤と云ふを揚州の赤穀

甚上品なりと世に知らる之稻といと訓とらるる日本紀伊代は

峯相山鶴足寺

おに村より下伊保村へ往り  
西橋第一の伽藍は天正の

始りしは諸寺相隣り塔院七八坊あり小郷氏の塔院は焼く

土師村

延喜式に計者後藤調池田加と云ふ  
大納言伴善男墓

て大納言みより貞観八年伴良國は流罪同十年配所は死

年六十其時峯相山鶴足寺中昌乃時して善男なりて大門赤

草菴と結ぶ屋は其地なりと云ふ善男なりて中庸豊

秋実清繩と五人あり宇治拾遺は善男應天門と焼く







窪山城趾 林田庄久保村あり谷伏甲斐守即國成これを身守正平年中赤松政村攻めし

佐見山 奥こま村あり

先まもつらりてたしはしむのうらむをたそふや

那抵山神社 依田村あり境内に自檀の樹あり とそ押の森 依田村の造あり

此角崎 鶴の形又仰る方山之其尾崎

誠部彈尾塚 誠部庄を保村 古へ誠部細川の邑とて冷泉水家世

々の系地 今も細川とあり 皇太后宮さま後成乃所女父の儀とて

播磨國誠部の庄とて不承他人知るは多るを地取の妨げ

多く作りたれが昔武部兼光へ委るる所江あはありて系

らせりも二つ

君いりはるき麻乃敷とてあるよもきガ敷とてとて

赤時久し

よれ中の麻の路とてありはり心のまのよもこのこして 勅勅撰

と評後よも及びは廿一ヶ条の地取の源法とてあらしめてはたり

其後押中の清水をこし

忘るぬりし心乃み息とて押中の清水ありげとまはし 勅勅撰

と依とてりも其誠部の庄へ下らしとて多の款あり

奥書曰 阿佛の安加門院の口系とてり人安家御の息あ家の室とて違五

人の氏あ敷るれ 是し後判發して其所松乃あは鎌倉へ下りはたり

純經十六日記とてあり

碧玉集曰 大納言政お 世の孫 孫生乃以播州細川村へ下り誠部

庄南社へありたる佐理宮とて

三坂の社とて 今三坂とてありはり 按あり

うしよ三坂の松のまを繩めぐりあはれ命なごきし

二月十日此不もて身まよりりたる母のこし三十一とてあはりはりよとて

よりぬとてりはりて墓にあり思ひつづけたり

うかりはる孫生の元と墓にありはりはりはりはりはりはりはりはりはりはりはり







早稲田大学図書館

011188882015